



デジタル レシーバー

# AR-DV10

## 取扱説明書

第1版



株式会社 エーオーアール  
Authority On Radio Communications



## はじめに

---

このたびは AR-DV10 をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。  
AR-DV10 は、各種デジタル復調モードおよびアナログオールモードに対応しているほか、中間周波段以降をソフトウェアで処理する SDR 方式を採用した、世界初マルチモード対応ハンディタイプの受信機です。

本機は、次に示すような多くの優れた特徴を持っています。

- 1) 100kHz～1300MHz の広帯域受信
- 2) マルチモード デジタル復調モード(自動検出可能、TETRA を除く)
- 3) オールモード対応アナログ受信
- 4) 高速なメモリスキャンモード
- 5) 高速なプログラムサーチモード
- 6) 受信支援機能(ステップアジャスト、オフセット受信、プライオリティ受信など)
- 7) microSD カード対応(録音、メモリデータファイル入出力、ファームウェア更新)
- 8) 520kHz～1710kHz AM 放送、64MHz～108MHz FM 放送向け専用回路を併用
- 9) 大容量バッテリーパック、AC アダプタ、アルカリ電池トレイ、シガーライターDC/DC アダプタ、急速充電台 付属
- 10) 防水 IPX5 相当(付属のアンテナとバッテリーパックとベルトクリップを取り付け、すべてのラバーキャップをしっかりと取り付けた状態)
- 11) W 65 × H 137 × D 41 mm のコンパクトな筐体

なお、本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の多彩な機能をご理解いただいたうえでご使用ください。また、お読みになられた後も、保証書と合わせて大切に保管していただき、操作がわからないときなどに活用してください。

AR-DV10 が、お客様のよきパートナーとなり長きにわたりご愛用いただけますよう心からお祈り申し上げます。

**株式会社エーオーアール**

#### **日本における地上デジタルテレビ放送への移行について**

本製品は地上デジタルテレビ放送には対応していないため、その放送内容(映像、音声、データなど)を復調できません。

日本における地上アナログテレビ放送は 2011 年 7 月 24 日に終了し、地上デジタルテレビ放送に完全に移行し、アナログテレビ放送波は完全停波しました。一部の地域(アナログ放送終了リハーサル対象地域)では、先行して 2010 年 7 月に完全停波しています。

# 目次

---

はじめに .....	1
目次 .....	3
安全上のご注意 ご使用の前に必ずお読みください .....	7
本体の取り扱いについて .....	8
自動車などへ搭載された場合について .....	9
IPX5 噴流保護等級防水性能相当について .....	9
AC アダプタの取り扱いについて .....	10
バッテリーパックの取り扱いについて（付属品） .....	11
1. ご使用のまえに .....	12
1.1. 内容品について .....	12
1.2. 最新の製品情報およびファームウェアについて .....	12
1.3. 本書の読み方 .....	13
2. 各部の名称と機能 .....	14
2.1. 本体上部 .....	14
2.2. 本体前面 .....	14
2.3. 本体左側 .....	15
2.4. 本体右側 .....	15
2.5. 本体後面 .....	16
2.6. 本体底部 .....	16
2.7. ディスプレイ表示 .....	17
3. 電源 .....	20
3.1. バッテリーパックを取り付ける .....	21
3.2. バッテリーパックを取り外す .....	21
3.3. バッテリーパックを充電する .....	22
3.3.1. AC アダプタを本体に接続して充電する場合 .....	22
3.3.2. 電源オン状態で充電する場合 .....	23
3.3.3. 急速充電台で充電する場合 .....	23
3.4. アルカリ乾電池を電源に使う場合 .....	23
3.5. 車載用外部電源を接続する場合 .....	24
4. アンテナ .....	25
4.1. アンテナを取り付ける .....	25

5. microSD カードについて .....	26
5.1. 対応 microSD カード .....	26
5.2. ファイルの保存場所について .....	26
5.3. ファイル名について .....	26
5.4. microSD カードを取り付ける .....	27
5.5. microSD カードを取り外す .....	27
5.6. microSD カードの初期化について .....	27
6. 基本操作 .....	28
6.1. 電源を入れる .....	28
6.1.1. 電源を切る .....	28
6.1.2. ラストワンスメモリ登録について .....	28
6.2. 音量の調整 .....	29
6.2.1. VOL ATT 設定の変更 .....	29
6.3. スケルチの調整 .....	30
6.4. 時刻設定 .....	31
6.4.1. カレンダーと時刻を設定する場合 .....	31
6.4.2. 時刻のみ変更する場合 .....	31
6.5. メニュー操作 .....	32
6.5.1. タイル式メニュー .....	32
6.5.2. リスト式メニュー .....	33
6.6. 文字入力欄での文字や記号入力 .....	34
6.7. VFO モードでの受信 .....	35
6.7.1. 周波数のあわせかた .....	36
6.7.2. ステップ周波数の設定 .....	37
6.7.3. ステップアジャストの設定 .....	38
6.7.4. VFO コピー .....	39
6.8. 復調モードと IF 帯域幅 .....	40
6.8.1. 復調モード選択 .....	40
6.8.2. デジタルオートモードを選択する場合の簡易な方法 .....	40
6.8.3. IF 帯域幅選択 .....	41
6.8.4. デジタル復調時に検出した情報等表示 .....	42
6.8.5. デジタル復調モードの各種設定(デジタル簡易無線秘話コード設定ほか) .....	43
7. 各種のスケルチと秘話反転 .....	44
7.1. ノイズスケルチ、レベルスケルチ .....	44
7.2. トーン(CTCSS)、DCS、逆トーン(REV.T)の選択 .....	44
7.2.1. CTCSS トーンスケルチ、REV.T 逆トーンのトーン周波数 .....	45
7.2.2. DCS コード .....	46

7.3. V.SCR 秘話反転(VI).....	46
7.4. その他の VFO 設定項目 .....	47
7.4.1. AGC 設定 .....	47
7.4.2. オフセット受信設定.....	48
7.4.3. オフセット周波数の登録 .....	48
8. 録音 .....	49
8.1. 録音ファイルについて .....	49
8.2. 録音時間について .....	49
8.3. 録音開始／終了.....	50
9. メモリチャンネル読み出しモードとスキャンモード .....	51
9.1. メモリチャンネル読み出しモード .....	51
9.2. メモリチャンネル登録.....	52
9.3. メモリチャンネル編集 .....	53
9.4. メモリバンク設定 .....	54
9.5. スキャンモード.....	55
9.5.1. スキャングループ設定 .....	55
9.5.2. 使用するスキャングループ番号の選択 .....	57
9.5.3. バンク番号を指定してスキャン開始 .....	57
9.5.4. メモリチャンネルパス登録と解除 .....	57
9.5.5. スキャンモードの停止中のメモリバンク内容の変更 .....	58
9.5.6. スキャンモードの停止中の VFO へのコピー .....	58
9.5.7. スキャンモードの停止中のメモリチャンネル読み出しモードへの移行 .....	59
9.5.8. メモリチャンネルの消去 .....	59
10. プライオリティ受信.....	60
10.1. プライオリティ受信設定 .....	60
10.2. プライオリティ受信の実行 .....	60
11. プログラムサーチモード .....	61
11.1. サーチ機能 .....	61
11.2. サーチバンク登録・編集 .....	62
11.3. サーチグループ設定.....	63
11.4. 使用するサーチグループ番号の選択 .....	64
11.5. バンク番号を指定してサーチ開始 .....	64
11.6. サーチパス登録と解除 .....	65
11.7. サーチ中のサーチバンク内容の変更 .....	65
11.8. サーチモードの停止中の VFO へのコピー .....	66

11.9. サーチバンクの消去 .....	66
12. 受信機設定 .....	67
13. データエディタ .....	68
14. その他の設定・操作 .....	71
14.1. キーロック .....	71
14.2. イヤホンアンテナ .....	71
14.3. アッテネータ .....	72
15. SD カード操作 .....	73
15.1. ファイル一覧 .....	73
15.2. 再生 .....	74
15.3. バックアップコピー .....	75
15.4. リストア .....	76
15.5. ファームウェア更新 .....	77
16. 特殊操作 .....	79
16.1. リモートモードの解除 .....	79
16.2. システムリセット .....	79
16.3. フルリセット .....	79
こんなときには .....	80
補足事項 .....	82
仕様 .....	83
さくいん .....	85






## 安全上のご注意 ご使用の前に必ずお読みください





この「安全上のご注意」は、お使いになる方や他の方への危害、財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための内容を記載しています。ご使用の際は、必ず記載事項をお守りください。

### 表示の説明

注意事項は危害や損害の程度により次の表示をしています。

	<b>危険</b>	誤った取り扱いをされた場合、死亡または重傷を負う可能性が切迫して生じることが想定される内容です。
	<b>警告</b>	禁止(してはいけないこと)を示します。
	<b>注意</b>	誤った取り扱いをされた場合、傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。

### 図記号の説明

	禁止(してはいけないこと)を示します。
	分解してはいけないことを示す記号の例です。
	強制(必ず実行していただくこと)を示します。
	電源プラグをコンセントから抜くことを示す記号の例です。

### 通信の秘密

電波法第 59 条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在を若しくは内容を漏らし、またこれを窃用してはならない」と通信の秘密に関して定められています。お客様が受信した通信の内容は、電波法上、内容または存在を第三者に漏らしたり、そのことによる行動を起こしたりすることが禁止されています。

## 本体の取り扱いについて



### 警告




● 分解・改造はしないでください。 発熱・発火・破損の原因となります。修理等は販売店または当社窓口にご相談ください。(分解・改造をされると期間内でも保証適用外となります)	
● 航空機内などの使用を禁止された場所では電源を切ってください。 他の電子機器に影響を及ぼすことがあります。	
● 引火・爆発の恐れがある場所では使用しないでください。 引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、発火の原因となることがあります。	
● 専用バッテリーパック・AC アダプタ・DC/DC アダプタ・電池トレイなどの当社指定の専用品を使用してください。 発熱・発火の原因となります。	
● 雷鳴が聞こえた場合はただちに使用を中断してください。 落雷・感電の原因となります。雷鳴が聞こえた場合はご使用を中止し、外部アンテナを設置している場合は、アンテナ端子も外してください。	
● 本機を水に浸したり、防水性能を保てない状態等で、本機の内部を濡らさないでください。 水などの液体が入ると、発熱・感電・故障の原因となります。	
● バッテリーパックの充電が所定の時間を超えても完了しない場合は、直ちに AC アダプタをコンセントから抜いてください。	
● 煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに電源プラグ・バッテリーパックなど電源を外して、弊社サービス課または販売店に問い合わせをしてください。	







### 注意

● AC アダプタを使用しないときは、コンセントから抜いてください。	
● バッテリーパックは+5°C〜+35°Cの場所で充電してください。 この範囲外の温度で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因となります。	
● 乳幼児の手の届く場所には置かないでください。 ケガなどの原因となります。	
● 強い衝撃を与えないでください。 故障・破損の原因となります。	
● 湿気・直射日光などは避けてください。 故障・発熱・発火の原因となりますので、次のような場所などで使用したり、放置したりしないでください。 ・ 湿気やホコリの多いところ ・ 直射日光の当たる場所 ・ 高温になる場所や極端な低温環境下	
● シンナーやベンジンなどは使用しないでください。 ケースが変質したり、塗装がはげる原因になります。 本機を清掃するときは、柔らかいきれいな布で拭いてください。 汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませ、かたくしぼってから拭いてください。	

## 自動車などへ搭載された場合について

 <b>危険</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車内では運転の妨げにならないように、しっかりと固定しましょう。</li> <li>● 取付けが不安定なままだと運転の妨げになったりして思わぬ事故の原因となることがあります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運転中の操作はやめましょう。</li> <li>● 運転中の操作は大変に危険ですのでやめましょう。</li> <li>● 操作時は、自動車を安全な場所に停止させてから行ってください。</li> </ul>	

 <b>警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専用 DC/DC アダプタなどの当社指定の専用品を使用してください。 発熱・発火の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過大音量に注意しましょう。</li> <li>● 音量を大きくし過ぎるとクラクションや警報機の音が聞こえにくくなり、大変に危険です。音量は適切に調整しましょう。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ヘッドホンは使用しないでください。</li> <li>● 運転中はヘッドホンの使用はやめましょう。</li> </ul>	

## IPX5 噴流保護等級防水性能相当について

<p>本機の防水性能は、付属のアンテナ、バッテリーパック、および、ベルトクリップを取り付け、すべてのラバーキャップをしっかりと取り付けた状態で、あらゆる方向からのノズルによる噴流水に耐える保護等級に相当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 湿気の多い場所での長時間放置は避けてください。</li> <li>● 水に浸さないでください。水中での使用はできません。</li> <li>● 海水、プールの水、温泉水、石けんや洗剤や入浴剤を含む水、アルコールや薬品に浸さないでください。これらの液体や砂、泥などの汚れがついた場合は真水でやや弱めの水流で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。</li> <li>● ラバー部分（アンテナ、スイッチ、キー部分、左右両側面のラバーキャップ、バッテリーパック接合部分のガスケット、ベルトクリップネジ止め部分）のキズや劣化、汚れなどがないことを確認してください。</li> </ul> <p>重要：本製品の防水性能は、当社試験方法によるもので、無破損・無故障・性能を保証するものではありません。</p>
--

## AC アダプタの取り扱いについて



### 警告






● 分解・改造はしないでください。 発熱・発火・破損の原因となります。	
● 出力をショートさせないでください。 発熱・発火・破損の原因となります。	
● 引火・爆発の恐れがある場所では使用しないでください。 引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、発火の原因となることがあります。	
● 濡らさないでください。 水などの液体が入ると、発熱・発火の原因となります。	
● 電源コードを破損しないでください。 発熱・発火・感電の原因となります。	
● 湿気・直射日光などは避けてください。 故障・発熱・発火の原因となりますので、次のような場所などで使用したり、放置したりしないでください。 ・ 湿気やホコリの多いところ ・ 直射日光の当たる場所 ・ 高温になる場所や極端な低温環境下	
● 濡れた手で AC アダプタ、電源コードやコンセントにふれないでください。	










### 注意

● 乳幼児の手の届く場所には置かないでください。 ケガなどの原因となります。	
● お手入れをするときはコンセントから抜いてください。	
● 長期間使用しないときは AC アダプタをコンセントから抜いてください。 電池の液漏れやショートによる発火の原因となります。	
● 家庭用電源(AC100～240V)で使用してください。	

## バッテリーパックの取り扱いについて（付属品）

 <b>危険</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分解・改造はしないでください。 液漏れ・発熱・発火・破損の原因となります。万一、バッテリー内部の液が眼に入ったときは、直ちにきれいな水で洗い流し、医師の診断を受けてください。そのままにしておくと失明などの事故の原因になります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 火の中に入れたり、加熱しないでください。</li> <li>● 火のそば、暖房器具のそばなど高温な場所で使用・放置しないでください。 液漏れ・発熱・発火・破損の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ショートさせないでください。金属類といっしょに携帯・保管しないでください。 液漏れ・発熱・発火・破損の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 強い衝撃を与えないでください。 発火・破損の原因となります。</li> </ul>	

 <b>警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 液漏れしたバッテリーパックを使用しないでください。</li> <li>● バッテリー内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、直ちにきれいな水で洗い流してください。そのままにしておくと皮膚がかぶれるなどの傷害の原因になります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用中・充電中に、異臭がする変色するなどの異常がある場合には、ただちに本体から取り外してください。</li> </ul>	

 <b>注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳幼児の手の届く場所には置かないでください。 ケガなどの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 濡らさないでください。 水などの液体が入ると、発熱・発火の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湿気・直射日光などは避けてください。 故障・発熱・発火の原因となりますので、次のような場所などで使用したり、放置したりしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湿気やホコリの多いところ</li> <li>・ 直射日光の当たる場所</li> <li>・ 高温になる場所や極端な低温環境下</li> </ul> </li> </ul>	

- お願い バッテリーパックは消耗品です。充電を繰り返しても機能が回復しない場合はバッテリーの寿命と考えられます。新しいものをお買い上げいただき、お取替えください。



Li-ion 00

本製品のバッテリーパックは、リチウムイオン電池を使用しています。

リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。

不要になりましたバッテリーパックのリサイクルについては、<AR-DV10 製品情報ウェブページ>（p.12「最新の製品情報およびファームウェアについて」に記載）のバッテリーリサイクルに関する記載事項をご参照いただき、ご協力をお願いします。

# 1. ご使用のまえに

---

## 1.1. 内容品について

・ AR-DV10 本体（アンテナリングパーツ付属）	1
・ AA-10 AC アダプタ	1
・ BP-10 リチウムイオンバッテリーパック	1
・ CC-10 急速充電台（Charger Cradle）	1
・ BC-10 ベルトクリップ（本体に取付済）	1
・ RA-10 アンテナ	1
・ DC-10 シガーライターDC/DC アダプタ	1
・ BT-10 アルカリ電池トレイ	1
・ microSD カード	1
・ 取扱説明書（本書）	1
・ 保証書	1

万一、不足していた場合は、すぐにお買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

## 1.2. 最新の製品情報およびファームウェアについて

AR-DV10 の製品情報(最新ファームウェア、バッテリーパックリサイクルなど)は、  
<AR-DV10 製品情報ウェブページ> にてご確認ください。

AR-DV10 製品情報ウェブページ (日本語)

<https://www.aor.co.jp/receiver/product/ar-dv10/>

ファームウェアの更新により、機能改善の結果、取扱説明書と差異が生じる場合がございます。この場合には最新ファームウェアの動作が優先となります。変更内容につきましては、  
<AR-DV10 製品情報ウェブページ> のファームウェアリリースノートをご確認ください。

### 1.3. 本書の読み方

本書では、説明文を次のように記載しています。

[1].....[ ]内の文字がキートップに表示のあるキー

[1](VFO).....キーが( )内の機能を意味する操作

[1]を押す.....キーを短く押す操作

[MODE]を長押し.....キーを1秒以上押す操作

[MENU]→[1]→[2]を順に押す.....キーを順に押す操作

[MODE]を長押し→[5]→[1]を押す...[MODE]キーを長押しのあと、以降のキーを順に押す操作

○ 操作結果を説明

※ 一部の条件での操作結果を説明

□ 修正や中止などの二義的な操作を説明

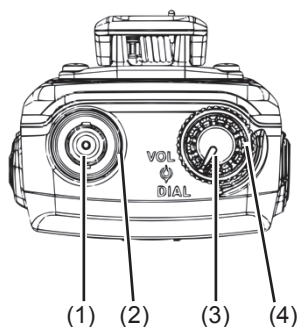
注意： 使用時に注意していただきたいことを説明

参考： お使いいただく際に知っておくと便利なことを説明

## 2. 各部の名称と機能

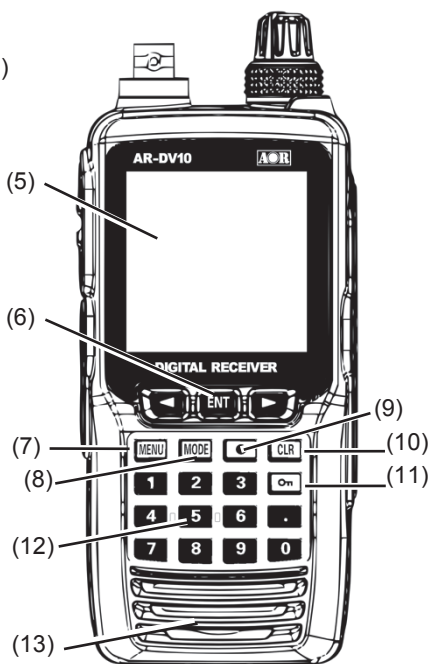
### 2.1. 本体上部

- (1) **アンテナ端子(BNC-J 型コネクタ 50Ω)**  
同梱品のアンテナ(または外部アンテナ)を接続
- (2) **アンテナリングパーツ**  
アンテナとコネクタとのすきまをカバーする  
注意：アンテナ端子に装着されています。
- (3) **VOL(ボリューム) 内側つまみ**  
時計回りに回すと音量が大きく、反時計回りに回すと音量が小さくなる
- (4) **DIAL(ダイヤル) 外側リング**  
受信周波数や選択項目の移動、項目の内容の切替などの操作



### 2.2. 本体前面

- (5) **ディスプレイ**  
受信周波数など動作状態や各種を表示  
(詳細は p.17 「ディスプレイ表示」の項に記載)
- (6) **[◀](左)、[ENT]、[▶](右)キー**  
周波数やチャンネルを変更、あるいは、ディスプレイ最下行に表示の機能の操作
- (7) **[MENU]キー**  
メニュー[MENU-TOP]画面を表示
- (8) **[MODE]キー**  
[MODE]画面、[Ext.MODE]画面を表示
- (9) **[●](録音)キー**  
microSD カード使用時に録音などの操作
- (10) **[CLR]キー**  
入力操作をキャンセルしてもとの表示に戻る操作
- (11) **[On](ロック)キー**  
入力操作をキャンセルしてキーロック(音量と電源オン・オフを除く操作が無効)する操作
- (12) **[1]～[9]キー、[0]キー、[.] (小数点)キー**  
周波数、バンク番号、チャンネル番号などの数字を入力、あるいは、項目を選択して切替などの操作  
各種メニュー画面のページ切替操作に、[0]、[.]キーを使用
- (13) **スピーカー**





## 2.3. 本体左側

### (14) 電源スイッチ

電源を入れる(押し)、電源を切る(長押し)操作

### (15) SQL/MONI(スケルチ/モニター)スイッチ

- ・ 1 回押し: スケルチ設定

DIAL でスケルチレベルを変更できる状態にする。

再度押すと決定

- ・ 長押し: モニター機能

押している間は、スケルチを強制的にオープンする。

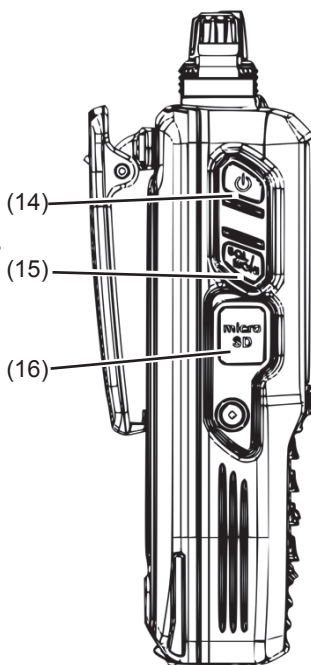
離すと解除 (オフセット受信設定時には設定した  
オフセット周波数を受信します)

### (16) microSD カードスロット

ラバーキャップを開けて、microSD カードを取り付け／取り外しできる

受信音声録音／再生、メモリチャンネルやサーチバンクなどのメモリデータの CSV データ入出力、および、ファームウェア更新に使用

**注意:** ラバーキャップを開けた状態では防水できません。



## 2.4. 本体右側

### (17) EAR(イヤホン)端子

(3 極 3.5mm 径、ミニジャック、モノラル出力)

ラバーキャップを開けて、ヘッドホン、イヤホンとの接続に使用 (FM 放送帯ではイヤホンアンテナに対応)

**注意:** 接続するプラグ形状によっては奥まで差し込めず使用できない場合があります。

### (18) DATA(データ)端子

(USB 端子、mini B ジャック)

コマンド制御用に使用

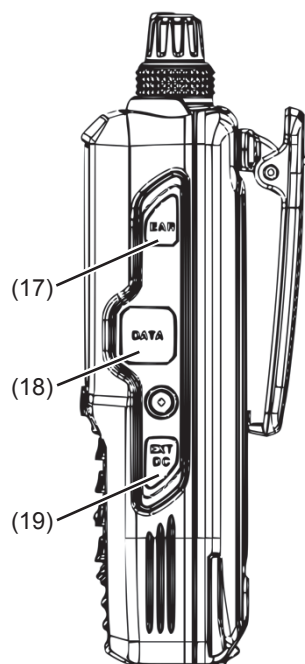
**注意:** 端子の向きを合わせて注意してまっすぐに挿抜してください。破損の恐れがあるので、接続したケーブルから端子にちからがかからないように、ケーブルを引っ張らないようにご注意ください。

### (19) EXT DC(外部 DC)端子

外部から電源を供給する場合に、同梱品の AC アダプタ、または、シガーライターDC/DC アダプタを接続

**注意:** 故障の原因になりますので、当社指定以外の製品を接続しないでください。

**注意:** ラバーキャップを開けた状態では防水できません。



## 2.5. 本体後面

### (20) ベルトクリップネジ穴

付属のビス 2 本で、ベルトクリップを取付

**注意：**ベルトクリップを外した場合は、ネジ穴内に水が入ることを防ぐため、ネジのみ取り付けてください。

### (21) ベルトクリップ

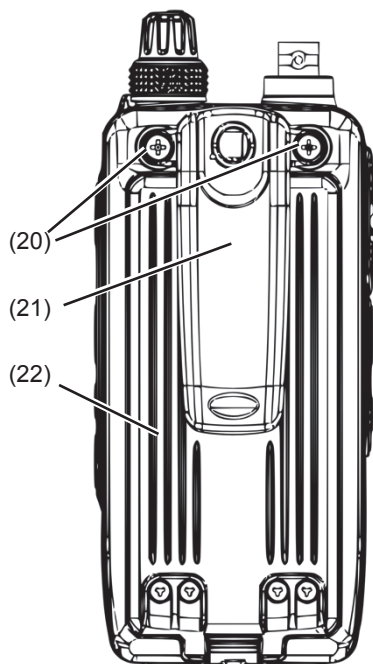
ベルトクリップは本体後面にビスで取り付けられています。

### (22) バッテリーパック

同梱品のリチウムイオンバッテリーパック

**注意：**バッテリーパックの防水ガスケットがゆるまないように取り付けてください。

**注意：**バッテリーパックを取り付けていない状態では防水できません。



## 2.6. 本体底部

### (23) バッテリーラッチ

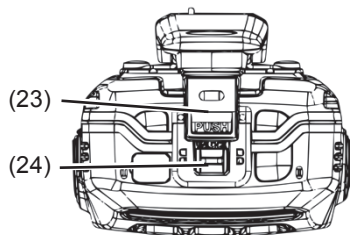
バッテリーパックを固定する機構。

ロックプレートを UNLOCK 表示位置の時に、PUSH 表示部を押してラッチを外すと、バッテリーパックを外すことが可能。

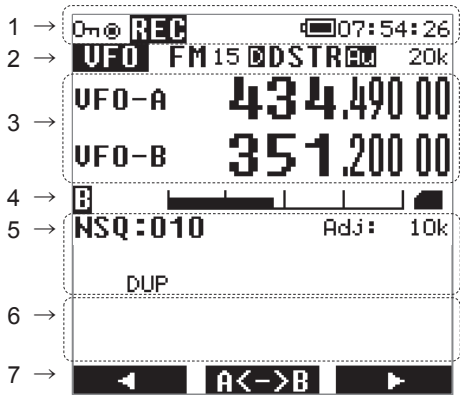
### (24) ロックプレート（灰色）

スライドすることで、バッテリーラッチを固定することができます。

LOCK 表示位置で固定状態、  
UNLOCK 表示位置で解除。

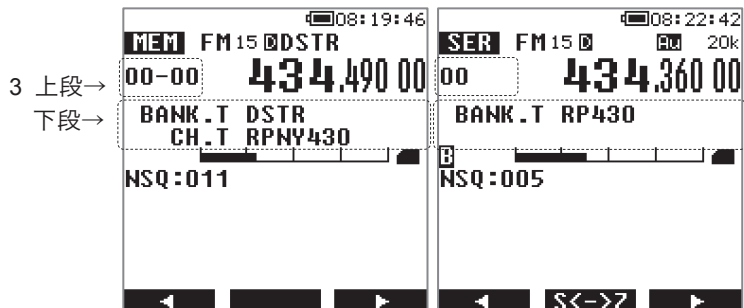


2.7. ディスプレイ表示

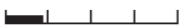





表示例		
1		キーロック状態にある 音量と電源オフ・オンを除く操作が無効 □ 解除操作：[  ] (ロック) キーを長押し
		リモートモード状態にある 音量と電源オフ・オンを除く操作が無効 □ 解除操作：[ ENT ] キーを押す
		microSD カード録音中
		バッテリー状態表示 ：満充電 ～：バッテリー残量あり ：バッテリー残量わずか(すぐに充電してください) ：充電中* ：外部電源で動作中* (*: 急速充電台から電源を供給している場合はこれらの表示にはなりません)
	07:54:26	時刻 (HH:MM:SS、24 時間制表示) (受信機内部の時計による)

2	<b>VFO</b>	動作モード <b>VFO</b> : VFO モード <b>MEM</b> : メモリチャンネル読み出しモード <b>SCN</b> : スキャンモード <b>SER</b> : サーチモード
	FM15	アナログ復調モードおよび IF 帯域幅 (単位 : kHz または Hz) FM100、FM30、FM15、FM6 (kHz) AM15、AM8、AM5.5、AM3.8 (kHz) USB2.6、USB1.8、LSB2.6、LSB1.8 (kHz) CW500、CW200 (Hz) デジタル復調モードの場合 IF 帯域幅 FM30、FM15、FM6 (kHz)
	<b>D</b>	デジタル復調が有効
	DSTR	設定したデジタル復調モード、または、 デジタルオートモードの場合は検出した復調モード DSTR D-STAR DV モード YAES YAESU digital D/V モード DMR DMR Tier 1 / Tier 2 / MOTOTRBO D-CR Digital CR / NXDN 6.25k dPMR dPMR446 Tier 1 ALIN Alinco EJ-47U digital P-25 APCO P-25 Phase 1 T-DM TETRA direct
	<b>Au</b> 20k	デジタルオートモードが有効 ステップ周波数 (単位 : kHz) (ステップアジャストは、5.設定表示欄に表示)
3	VFO-A XXXX.XXX XX VFO-B XXXX.XXX XX  00-00 XXXX.XXX XX BANK - MEMBNK_TITLE CH - MEMCH_TITLE  00 XXXX.XXX XX BANK.T SEARCH_TITLE	受信周波数表示 (動作モードによる) 単位 : MHz (3MHz 以上)、または、kHz (3MHz 未満) VFO-A または VFO-B 受信の場合は、上段に受信周波数 下段に、もう一方の VFO の周波数を表示 メモリーチャンネル読み出しモード、および、スキャンモードでは、上段左にバンク番号-チャンネル番号、下段にメモリーバンクとチャンネルのタイトルを表示 サーチモードでは、上段左にバンク番号、サーチバンクのタイトルを表示



メモリーチャンネル読み出しモード、サーチモードの表示例

4	<b>B</b>	ビジー（スケルチが開いている）
		S メータ（棒グラフ表示）
		microSD カード 表示：認識できている 点滅：認識確認中（しばらくお待ちください）
5	NSQ:010 VolATT Adj: 10k CTC ATT DUP	設定表示 各種設定状態等の表示 NSQ:nnn LSQ:nnn スケルチ方式とスケルチ値 VolATT VOL ATT 設定あり Adj: 10k ステップアジャスト周波数 CTC CTCSS 設定あり DCS DCS 設定あり RTN 逆トーン設定あり VI 秘話反転設定あり（米国民生用バージョン非搭載） AGCF AGC 設定 FAST AGCM AGC 設定 MID AGCS AGC 設定 SLOW RF-G AGC 設定 RF-G ATT アッテネータ ON EAR イヤホンアンテナ ON DUP オフセット周波数設定あり PAS パス設定あり
6	from CCCCCC /3 to CQCQCQ \交互表示の rep1 CCCCCC C ✓場合あり rep2 CCCCCC C (各モードによる)	受信情報表示 デジタル通信に関する受信情報を表示
7	 <b>ENT</b> 	[◀](左)、[ENT]、[▶](右)キーの機能表示 これらのキーは操作場面によって機能が変わります ◀ 左(前)の項目に移動、受信周波数を低く変更* ▲ 上の行に移動 ↶ 行選択モードに戻る BS 右端から 1 字消去 C◀ 左の桁に移動(一桁ずつ選択入力の場合) ENT 決定・登録 SEL 選択 SET 設定 SET&↶ 設定して行選択モードに戻る NEXT 次の項目に進む A<->B VFO-A と VFO-B を切替 S<->Z サーチ/スキャンと VFO-Z を切替 ▶ 右(次)の項目に移動、受信周波数を高く変更* ▼ 下の行に移動 COPY (日付時刻情報)コピー C▶ 右の桁に移動(一桁ずつ選択入力の場合) (* VFO モードで、ステップ周波数の 10 倍分変化します)

### 3. 電源

---

AR-DV10 はバッテリーパックを電源として動作します。

付属の専用 AC アダプタを AR-DV10 本体に接続して、バッテリーパックを充電、および、外部電源として使用できます。

付属の急速充電台に、付属の専用 AC アダプタを接続して、急速充電台に本機を挿しこむことでバッテリーパックを充電できます。

**注意：**本機を 1 か月以上使用しない場合は、過放電防止のため、バッテリーパックを本体から取り外してください。

#### **注意：バッテリーパックの取り扱いについて**

- ・ バッテリーパックを取り付けた状態では、本機の電源をオンにしない場合でも待機電流により電力を消費しますので、1 か月に 1 度以上充電してください。
- ・ バッテリーパックを取り付けたまま本機を長期間使用しないと、バッテリーパックが過放電して劣化が早まる場合があります。
- ・ バッテリーパックを保管する際は、電極が汚れないように、他の金属に触れないように注意してください。
- ・ バッテリーパックを本体から外して長期間保管する場合は、過放電防止のために、半年に 1 度は本体に取り付けて 50% 程度の残量となるように(長くて急速充電台で 2 時間程度、または、AC アダプタを本体に接続して 3 時間程度)充電してください。
- ・ バッテリーパックは 50℃ を超える高温の場所での保管を避けてください。動作保証温度範囲で保管することをおすすめします。
- ・ バッテリーパックは約 300 回充放電して使用できますが、過充電や過放電により寿命が短くなる場合があります。
- ・ バッテリーパックは、くり返し充電するにつれ劣化し、容量が減少します。
- ・ バッテリーパックの端子や電極が汚れていると接触不良で本機の動作や充電に支障がおきたり、発熱や破裂の原因になります。端子や電極の汚れは、乾いた布や綿棒で除去してください。
- ・ バッテリーパックを落としたり、衝撃を加えないでください。破損や事故の原因になります。
- ・ 誤ってバッテリーセルがショートした場合に、バッテリーパックが故障または破損する可能性があるため、バッテリーパックを開封、または、分解しないでください。
- ・ 破損したバッテリーパックは危険ですので使用しないでください。

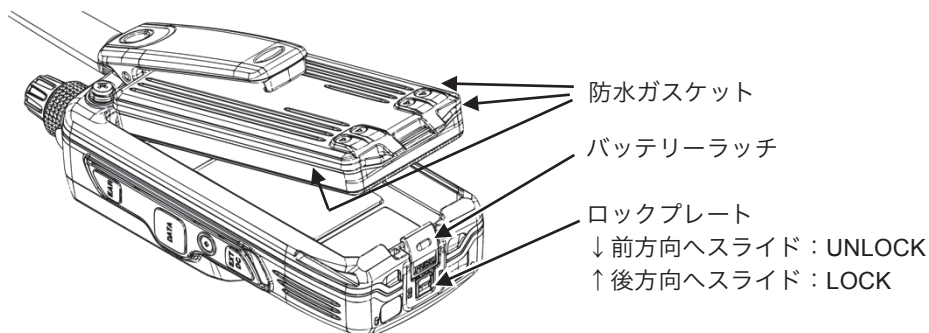
### 3.1. バッテリーパックを取り付ける

参考： バッテリーパックを取り付けた直後に起動音がでます。 気になる場合は、VOL (ボリューム)を反時計回りにまわした(音量が小さい)位置で操作することをおすすめします。

1. ロックプレート(灰色)を本体前面方向にスライドし UNLOCK 表示が見える位置にする
2. バッテリーパック上部のツメを本体後面のくぼみの上部に合わせて挿し込む
3. バッテリーラッチがかかるまで、バッテリーパック下部を押し込む
4. ロックプレート(灰色)を本体後面方向にスライドし LOCK 表示が見える位置にする
  - バッテリーパックを本体に取り付けた直後に自動的に電源がオンになり起動します。
  - すぐに使用しない場合は、起動が完了して受信画面表示になってから、電源スイッチを長押しして、電源をオフにしてください。

#### 注意：

- ・ バッテリーパックの側面を一周している防水ガスケットがずれると、不適切な部分にかみ込むことがありますので、注意して取り付けてください。
- ・ はじめてお使いになる場合や長期間お使いにならなかった後の場合は、付属の専用 AC アダプタを本体に接続して、バッテリーパックを充電してからお使いください。



### 3.2. バッテリーパックを取り外す

注意：電源オフの状態で作業してください。

1. ロックプレート(灰色)を本体前面方向にスライドし UNLOCK 表示が見える位置にする
2. バッテリーラッチの PUSH 表示部分を押す

注意：ベルトクリップを取り付けている場合は、バッテリーラッチを押す前にベルトクリップを押し上げてください。





3. バッテリーパック下部の浮き上がった部分からゆっくりと取り外す





### 3.3.2. 電源オン状態で充電する場合

本体の動作状態(信号受信、音声出力、録音、バックライト点灯など)によって、満充電になるまでの時間が異なります。(大音量での音声出力など消費電流の大きい状態が連続する場合は、充電が完了しない場合があります。)

1. AC アダプタのプラグを本体の EXT DC 端子に接続する
  - ディスプレイのバッテリー状態表示が  (外部電源で動作中) 表示ののち、およそ 70 秒以内に  (充電中表示) 表示になり、充電を開始します。
  - その後に、ディスプレイのバッテリー状態表示が  (外部電源で動作中) 表示になると充電が完了です。
  - ※ 充電が不要な場合(満充電状態)は  (充電中表示) 表示状態にはならず、充電されません。
2. 本体から AC アダプタのプラグを外す

### 3.3.3. 急速充電台で充電する場合

1. AC アダプタのプラグを急速充電台に接続する
2. 本体の電源をオフにする
3. 本体の左右側面下部の溝を急速充電台のレールに合わせて挿し込む
  - 急速充電台の LED が赤色に点灯して、充電が開始される(ディスプレイ表示はありません)
  - 急速充電台の LED が緑色に点灯したら充電完了(ディスプレイ表示はありません)
  - ※ 急速充電台の LED が赤色点滅する場合は、正常に充電できないことを意味します。直ちに急速充電台から取り外して、バッテリーパックの電極や急速充電台の電極に汚れや異常がないか点検してください。バッテリーパックが完全に放電している場合に充電できない場合があります。次項の注意書きをご参照ください。
4. 本体を急速充電台から取り外す

**注意：**バッテリーパックが完全に放電して急速充電台では充電できない(バッテリー状態表示が回復しない、あるいは、急速充電台の LED が赤色点滅する)場合は、AC アダプタを本体に接続して 10 分間程度充電してから、その後に急速充電台で充電することをお試しください。

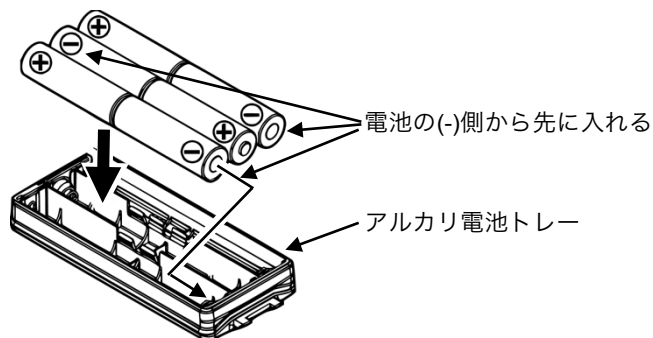
### 3.4. アルカリ乾電池を電源に使う場合

バッテリーパックの代わりに付属のアルカリ電池トレイ(BT-10)を使って、6 本の単 3 形(AA/LR6)アルカリ乾電池を電源に使用できます。

#### 注意：

- ・ マンガン乾電池、充電式電池は使用できません。**アルカリ乾電池専用**です。
- ・ AC アダプタや外部電源を本体に接続しても、アルカリ電池トレイに入れた電池には充電されません。
- ・ 古い電池と新しい電池や、銘柄や品番の異なる電池をまぜて使用しないでください。
- ・ 長期間本機を使用しない場合は、アルカリ電池トレイから電池を取り外してください。
- ・ アルカリ電池トレイの端子や電極が汚れていると接触不良で本機の動作に支障がおきたり、発熱や破裂の原因になります。端子や電極の汚れは、乾いた布や綿棒で除去してください。

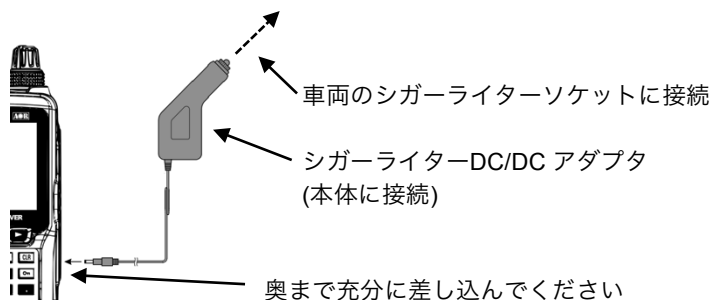
1. 電池の向きとトレイ内部の表示を確認して、電池の(-)側から先に入れ、(+)の電極が確実に接触するように一列に2本ずつ、合わせて6本の電池をトレイ内に入れる
2. バッテリーパックを取り外して、その代わりとして、同様の方法でアルカリ電池トレイを本体に取り付ける



### 3.5. 車載用外部電源を接続する場合

付属のシガーライターDC/DCアダプタ(DC-10)を使って、車両のシガーライタープラグ(12Vまたは24V)を電源に使用できます。

1. 本体の電源をオフにする
2. シガーライターDC/DCアダプタ(DC-10)のプラグを、本体のEXT DC端子に接続する
3. シガーライターDC/DCアダプタのシガープラグを、車両の電源ソケット(シガーライターソケット)に接続する



**注意：**AR-DV10 専用品以外のシガーライターDC/DCアダプタを使用しないでください。本体の故障の原因になるばかりでなく、発熱・発火の原因にもなります。

## 4. アンテナ

AR-DV10 には上部にアンテナ端子(BNC-J 型コネクタ 50Ω)があります。  
付属のアンテナ、または、受信する周波数に応じたアンテナを接続してください。

### 注意：

- ・ 本機は中波(AM)ラジオ用バーアンテナを内蔵していません。
- ・ 付属のアンテナは中波や短波など波長の長い周波数の受信には向いていません。
- ・ 本体を手で持つことや身体に密着して携帯するによって、身体がアンテナの一部となり、台上に置いた場合とは受信状態が大きく変わる場合があります。

### 4.1. アンテナを取り付ける

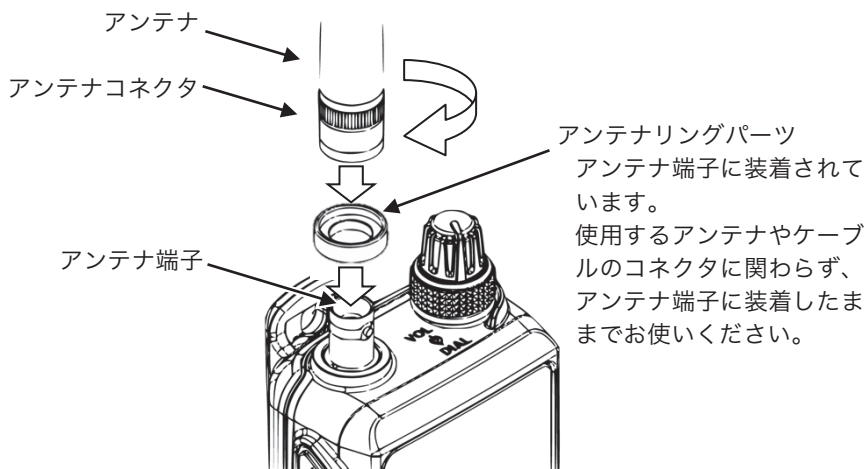
**注意：**本体のアンテナ端子にはアンテナリングパーツが装着されています。装着したままの状態、アンテナを取り付けることができます。

1. アンテナのコネクタ内側の溝とアンテナ端子のピンの位置を合わせて挿しこむ
2. コネクタのギザギザのあるリング部分を時計回りにロックするまで約 1/4 回転まわす

□ アンテナを外す場合は、取り付けと逆の手順で外してください。

**注意：**アンテナを外す場合は、アンテナリングパーツの紛失にご注意ください。

市販のアンテナや外部アンテナを接続する場合は、アンテナの BNC(P)コネクタを本体のアンテナ端子に接続してください。



## 5. microSD カードについて

---

本機は microSD (microSDHC を含む) メモリーカードを使用して次のことができます。

- ・ 受信音声の録音 (モノラル)、録音ファイルの再生
- ・ メモリチャンネル等のデータのバックアップファイルの保存とリストア
- ・ 本機のファームウェアの更新

### 5.1. 対応 microSD カード

本機は、次の容量の「microSD カード」と、「microSDHC カード」のみ対応しています。

- ・ 2GB                      microSD カード(FAT16 フォーマットのみ)
- ・ 4GB～32GB          microSDHC カード(FAT32 フォーマット、または、クラスサイズ 64KB の FAT16 フォーマットのみ)

**注意：**

- ・ ほとんどの場合は市販時にフォーマット(初期化)されている状態でお使いいただけます。パソコンなど他の機器を使用して各種の形式でフォーマットされた場合は本機ではお使いいただけない場合がありますので、ご注意ください。
- ・ 本機で記録した microSD カードは書込禁止できません。microSD カードのデータを保護する場合には PC 等を使用して別の記憶媒体へデータをバックアップコピーしてください。
- ・ microSD カードに記録や再生や読み込み動作しているときに、microSD カードを取り外したり、本機の電源を切らないでください。
- ・ microSD カードの端子を汚さないように注意して取り扱ってください。

### 5.2. ファイルの保存場所について

本機は、SD カードを開いたすぐ中のディレクトリにあるファイルのみ取り扱います。

本機が録音、保存するファイルは、すべてここに保存します。

**注意：**フォルダの中に置かれたファイルは対応していません。

### 5.3. ファイル名について

本機が取り扱うことのできるファイル名は、8 文字以内の英数字(ASCII)および対応している拡張子(WAV、CSV、D10)に限ります。


**注意：**8 文字を超えるファイル名や、漢字・かな文字などの全角文字およびカタカナを含むファイル名のファイルには対応していません。

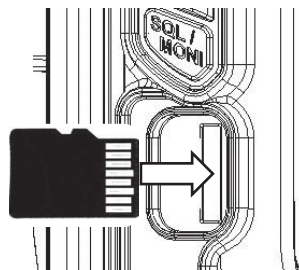
## 5.4. microSD カードを取り付ける

1. 電源スイッチを長押しして本機の電源を切る
2. 本体左側面の microSD 表示のラバーキャップを開ける
3. microSD カードの挿し込む方向（カードの裏面=端子のある面を手前側）を確認して、本機の microSD カードスロットにまっすぐにロックするまで挿しこむ



**注意:** カードスロットの左側の隙間に押し込まないようにしてください。

4. ラバーキャップをしっかりと閉じる
5. 電源スイッチを押して本機の電源を入れる

○ microSD カードが正しく認識されるとディスプレイに  SD カードアイコン表示します。



### 注意：

- ・ microSD カードの取り付け・取り外しは本機の電源を切った状態でおこなってください。
- ・ ディスプレイの  SD カードアイコンが点滅している場合は、認識が完了していません。16GB、32GB などの容量の大きな microSD カードや多数のファイルが記録されている場合に時間がかかる(数分)場合があります。
- ・ ディスプレイに  SD カードアイコン表示がない場合は、正しく認識していません。対応 microSD カード(かつ、対象フォーマット形式)であるか、もしくは、パソコン等で正常に使用できるか確認してください。microSD カードの端子が汚れている場合は、乾いた布か綿棒で清掃してください。

## 5.5. microSD カードを取り外す

1. 電源スイッチを長押しして本機の電源を切る
2. 本体左側面の microSD 表示のラバーキャップを開ける
3. microSD カードスロット内の microSD カードを軽く押し、少し出てきたら引き抜く  
注意：無理に引き抜かないでください。繰り返し軽く押すことをお試しください。
4. ラバーキャップをしっかりと閉じる
5. 電源スイッチを押して本機の電源を入れる

**注意：** 録音中や各種メモリーデータ等のバックアップ中などの記録動作中(スケルチ・スキップ中を含む)に microSD カードを取り外さないでください。

## 5.6. microSD カードの初期化について

- ・ 本機では初期化できません。
- ・ 必要な場合は、パソコンで「SD カードフォーマッター」(SD アソシエーション)を(特別な指定なしで)お使いください。 ([http://www.sdcard.org/jp/downloads/formatter\\_4/](http://www.sdcard.org/jp/downloads/formatter_4/))

## 6. 基本操作

---

本機を使用するための基本的な操作を説明します。

バッテリーパックが充電済みであり、アンテナが正しく接続されていることを確認してください。

### 6.1. 電源を入れる

1. 左側面の電源スイッチを押して離す

- 電源が入り、ディスプレイはスタート表示します。  
スタート表示にはファームウェアバージョン番号を含みます。
- 起動音が出ます。  
参考：あらかじめ VOL を反時計回りにまわしておくことで起動音が小さくなります。
- その後、受信動作画面が表示されます。

**注意：**起動が完了して、受信動作画面が表示されるまで、キー操作をしないでください。

参考：ディスプレイのバックライトの点灯設定を変更したい場合は、

[MENU]→[7](CONF)→[4](BACKLIGHT)を順に押し、DIAL をまわして設定を選択して、[ENT]を押す

#### 6.1.1. 電源を切る

1. 電源スイッチをシャットダウン表示「SHUTDOWN」が表示されるまで長押しして離す

- ※ 受信機設定([7](CONF))の[7] PROTECT が OFF の場合は、このときにラストワンスメモリ登録します。(詳しくは次項)
- シャットダウン表示のあと、ディスプレイ表示が消えて、電源が切れます。

#### 6.1.2. ラストワンスメモリ登録について

受信機の設定内容をメモリ登録することで、次回に電源を入れたときに登録時と同じ状態に復帰させることができます。

※ 受信機設定([MENU]→[7](CONF))の[7] PROTECT が ON の場合は、メモリ登録しません。

**注意：**電源スイッチを操作することなく電源を切った場合には、メモリ登録しません。

車載時など外部電源使用時やバッテリー切れなど電源入力が切れる場合にご注意ください。

## ラストワンスメモリに登録される内容

- ・ 現在の動作モードと、次の内容
  - VFO モードの場合  
受信周波数
  - メモリチャンネル読み出しモードの場合  
バンク番号とチャンネル番号
  - スキャンモードの場合  
バンク番号とチャンネル番号とスキャン方向
  - プログラムサーチモードの場合  
バンク番号と受信周波数とサーチ方向
  - ステップ周波数とステップアジャスト
  - 復調モードと IF 帯域幅
  - スケルチの設定内容（秘話反転、トーン、コードなどを含む）
  - AGC 設定
  - 受信オプションの内容（デジタル復調固有の設定値を含む）
- ・ 直前の VFO モード、メモリチャンネル読み出しモード、スキャンモード、サーチモードの各内容
- ・ 各種受信機設定（ビープなど）
- ・ 全ての VFO、メモリバンク、スキャングループ、サーチバンク、サーチグループの内容（パス周波数を含む）
- ・ プライオリティ受信の設定内容

## 6.2. 音量の調整

音量調整は、VOL(本体上部の内側つまみ)を(音量大：時計回り方向に)まわして、いつでも調整できます。

電源オン時の起動音の音量やキー操作時のビープ音もこれに従います。

受信音声出力はスケルチによって消えている場合があります。

スケルチについて、詳しくは p.30 「スケルチの調整」の項目を参照ください。

**注意:** VOL を時計回りいっぱいに戻しても音が出ない、あるいは、音が小さすぎる場合は、「VOL ATT」設定を「05」～「00」（00 が音量最大）に設定してお試しください。

### 6.2.1. VOL ATT 設定の変更

1. [MENU]→[7](CONF)→[2](VOL ATT)を順に押す
  2. VOL ATT 項目値が「05」～「00」の範囲にない場合は、DIAL を反時計回りにまわして「00」（00:音量最大）に近い適切な値にする
  3. [ENT]を押す
- VOL ATT の項目値が 06 以上の場合は、ディスプレイのスケルチ値表示の右側に「VolATT」表示されます。

### 6.3. スケルチの調整

スケルチは、信号のない時にノイズ音をカットするために、音声出力を消す動作です。アナログ復調モード(FM、AM、USB、LSB、CW)とデジタルオートモード(AUT1=デジタル通信または FM を自動検出)では、信号のないときにノイズ音が消えるぎりぎりの位置に合わせます。

**注意：**デジタル復調モードに設定している場合は、スケルチの設定値が 000 でも目的のデジタル通信を検出しなければ音声出力されません。

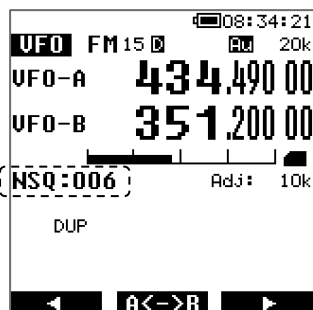
スケルチが動作して音声を消している状態を「スケルチが閉じる」、音声が聞こえている状態を「スケルチが開く」といいます。

スケルチが開くとディスプレイに **B** (ビジー)表示します。

メモリスキャンやプログラムサーチで受信周波数を変えながら信号を探す場合は、スケルチが開くことで、信号があると判定します。

スケルチの種類と設定値は、ディスプレイの設定値表示欄に表示されています。

スケルチの種類と設定値



1. 本体左側面の[SQL/MONI](スケルチ/モニター)スイッチを押す  
○ ディスプレイのスケルチ表示が黒地白文字になります。
2. 本体上部の外側リングの DIAL を回して、スケルチの設定値を変更する  
○ 値を大きくすることで信号のないときにスケルチが閉じてノイズ音が消えます。  
注意: 値が大きすぎると信号を受信したときにスケルチが開かず受信音が聞こえません。
3. [SQL/MONI]スイッチを押す  
○ ディスプレイのスケルチ表示が黒文字に戻ります。

スケルチが自動選択モードの場合は、  
復調モードが AM 系(AM、LSB、USB、CW)の場合にレベルスケルチ(LSQ)が動作、  
復調モードが FM の場合にノイズスケルチ(NSQ)が動作します。

参考: スケルチを自動選択しない設定やその他の特定条件でのみ音声が聞こえるようにする機能(トーン、逆トーン、DCS、デジタル通信)については p.44「各種のスケルチと秘話反転」の項を参照ください。



## 6.4. 時刻設定

本機の時計はカレンダー(年月日)と時刻(時分)を設定します。

時間帯(タイムゾーン)の設定やサマータイム機能はありません。

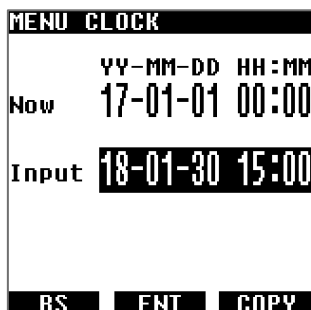
用途に応じて、お使いの地域の標準時、あるいは、協定世界時でお使いください。

お使いの地域の標準時で、日付時刻を設定してください。

時刻情報は、録音など SD カードのファイルの時刻情報等に使用します。

### 6.4.1. カレンダーと時刻を設定する場合

1. [MENU]→[6](CLK)を順に押す
2. [1]～[9] [0]の数字キーで Input 欄に年(西暦下 2 桁)、月、日、時、分を各々2 桁で入力  
例：1801301500 （2018 年 1 月 30 日 15 時 00 分の場合）
3. 標準時計の 0 秒に合わせて、[ENT]を押す



### 6.4.2. 時刻のみ変更する場合

1. [MENU]→[6](CLK)を順に押す
2. [▶](COPY)を押す
  - 現在の受信機内の日付時刻情報が Input 欄にコピーされる
3. [◀](BS)を押す
  - MM(分)の一の桁が消去されカーソル「\_」が表示される  
(変更したい数字が一の桁のみの場合は、手順 6 へ)
4. [◀](BS)を押す
  - MM(分)の十の桁が消去されカーソル「\_」が表示される
5. 合わせたい分を数字キーで入力
6. 標準時計の 0 秒に合わせて、[ENT]を押す

時分(HH:MM)を変更する場合は、同様に[◀](BS)を押して HH(時)の桁まで削除してから変更してください。

## 6.5. メニュー操作

AR-DV10 は多数の設定項目があるため、ディスプレイに各種のメニューを表示して、主に数字キーで操作できるようにしています。

### 6.5.1. タイル式メニュー

3 列 3 行のタイル表示の項目から選択するメニューです。

1. 項目を決定する場合には、そのタイルの左上の数字キーを押す

○ 「→」表示のない項目を決定したとき、その項目の機能で受信動作画面になります。

設定内容を登録保存するために「WRITING MEMORY...」表示されることがあります。

※ 「→」表示のある項目を決定したとき、詳細メニューが表示されます。

・ タイル式メニューを表示したとき、黒地白文字の項目は「選択」を示し、メニューを開いた時点の表示は、現在の(またはメニューの最初の)項目が選択されています。

・ 薄い文字で表示される項目は選択できません。(他の設定値との関連によります)

・ 9 番タイルの下に「p1/2」などの表示は、メニューのページ番号とページ数を示します。この場合は、2 ページのうちの 1 ページめです。

・ 2 ページ以上のメニューは、7～8 番の項目の下に[・ P<<] [° P>>] 表示しています。

これは、[.] (小数点)を押して前ページ、[0]を押して次ページを表示することを示します。

MENU-TOP		
1 →	2 →	3 →
UFO	MEM	SCAN
4 →	5 →	6 →
SRCH		CLK
7 →	8 →	9 →
CONF	EDIT	OPT
・	0	p1/1
UFO MODE		
UFO-A 439.49000		
◀	ENT	▶

MODE		
1 →	2 →	3 →
DSTR	YAES	DMR
4 →	5 →	6 →
D-CR	dPMR	ALIN
7 →	8 →	9 →
P-25	T-DM	
・ P<<	° P>>	p1/2
MODE		
CW DSTR YAES		
◀	ENT	▶

・ 選択したい項目のタイルの左上の数字のキーを押すとその機能を選択し決定します。

・ タイルの 1~9 の番号のすぐ下に「→」表示のある項目は、決定したとき詳細メニューが表示されることを示しています。

・ 選択項目が設定値を持つ場合は、タイル表示の下に 2 行に表示します。

UFO MODE	
UFO-A 439.49000	
MODE	
CW	DSTR YAES

隣接の項目の値を左右に表示する場合もあります。

・ [◀] または [▶] を押すと前後の項目に選択項目が移ります。

・ [ENT] を押すと選択項目を決定します。

## 6.5.2. リスト式メニュー

9 行のリスト表示の項目から選択するメニューです。

- ・リスト式メニューを表示したとき、そのうち 1 行は全体が黒地白文字の「行選択モード」です。このとき、項目値を変更したい項目行を選択することができます。
- ・薄い文字で表示される項目行は選択できません。(他メニューの設定値によります。)
- ・各項目行は、その行の右寄りの部分に現在の項目値が表示されます。
- ・項目内容が空白の行は、割り当てがなく、選択できません。

1. 項目値を変更したい項目行の番号の数字キーを押す

○ 項目行の右端に「✓」表示がある場合は、項目値のみが黒地白文字の「項目値選択モード」になり、DIAL を回して項目値を変更できます。

※ 項目行の右端に「→」表示がある場合は、別の詳細メニューや入力画面が表示されます。

MEM CH EDIT 00-00

1	BANK-CH	00-00→
2	FREQ.	434.49000→
3		
4	MODE	DSTR✓
5	IFBW	15k✓
6	PASS	OFF✓
7	T: RPNV430	→
8	PROTECT	OFF✓
9	MEM CH PARAM SET	

• P<< [0] P>> p1/2

SEL

CH EDIT BANK-CH

BANK\_CH 00-00

「→」表示の項目は、別の入力画面が表示される（入力後[ENT]を押して戻る）

「✓」表示は、DIAL を回して項目値を選択できる（選択後[◀](←)を押して戻る）

9「～PARAM SET」で終わる項目行は、このメニューのすべての入力値を登録してメニューを終了(ほとんどのリスト式メニューに共通)

2. 項目値の選択、または、入力ができたら、[◀](←)を押す

○ 「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

・9 番の項目行の右下の「p1/2」などの表示は、メニューのページ番号とページ数を示します。この場合は、2 ページのうちの 1 ページめです。

・2 ページ以上のメニューは、9 番の項目行の下に [• P<<] [0 P>>] 表示しています。

これは、[.]を押して前ページ、または、[0]を押して次ページを表示することを示します。

3. このメニュー(複数ページを含む)でのすべての変更が済んだら[9]を押す

○ 9 番の「～PARAM SET」で終わる項目行では、このメニューでの入力値をすべて登録してメニューを終了します。(複数ページのメニューの場合は、どのページでこの操作をしても同様に機能します。)

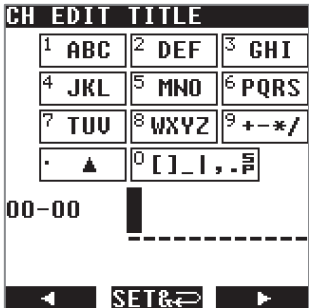
○ 設定内容を登録保存するために「WRITING MEMORY...」表示されることがあります。

6.6. 文字入力欄での文字や記号入力

メモリチャンネルやメモリバンク、サーチバンクのタイトルなどの文字入力欄には、キー操作で英数字や一部の記号を入力することができます。

文字表 (DIAL をまわすとき、この表の順に文字が変わる)

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ [\]^_`
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{ }~ (空白文字)
!"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@



キー入力可能文字 (同じキーを続けて押すとき、入力可能文字の順に文字が変わる)

キー 入力可能文字	キー 入力可能文字	キー 入力可能文字
1 ABC A B C a b c 1	2 DEF D E F d e f 2	3 GHI G H I g h i 3
4 JKL J K L j k l 4	5 MNO M N O m n o 5	6 PQRS P Q R S p q r s 6
7 TUV T U V t u v 7	8 WXYZ W X Y Z w x y z 8	9 +-*/ + - * / 9
. ▲ (入力可能文字の逆順)	0 [ ] _   , . (空白文字) 0	

入力操作例

- ・「A」を入力したい [1]を押す：キーに対応する最初の文字が入力できます。
- ・「B」を入力したい [1]を 2 回押す：同じキーを続けて押すつど、入力中の文字が次のように順に巡回して変わります。  
[1]キーを続けて押す A → B → C → a → b → c → 1 → A → … (同様に繰り返し)
- ・文字の変更中に逆順に文字を変えたい [.] (▲：逆順)を押すつど、前述とは逆順に巡回して変わります。文字を進めすぎたときや、数字入力、小文字入力に便利です。  
[1]を押す、次に[.] (▲：逆順)を押す。  
[◀], または、[▶]を押す。  
[1]→[2]を順に押す。異なる数字キーを使う文字が続く場合は、順に右に入力できます。  
[1]→[▶]→[1]→[1]を順に押す。 同じ数字キーを使う文字が続く場合は[▶]キーを押して入力位置を右に移動してください。  
・「ADG」を入力したあと、A の次に「C」を入力したい [◀]を押して、「D」を入力位置(黒地白文字)にして、[1]→[1]→[1]を順に押す。すでに文字がある場合は文字挿入になり「ACDG」になります。  
[▶]キーを押して入力位置を右移動する。  
入力位置で[0]を押す、次に[.]キーを 2 回押す。  
[CLR]を押す。右側に文字がある場合は詰められます。
- ・空白文字を入力したい
- ・空白文字を挿入したい
- ・入力位置の文字を削除したい

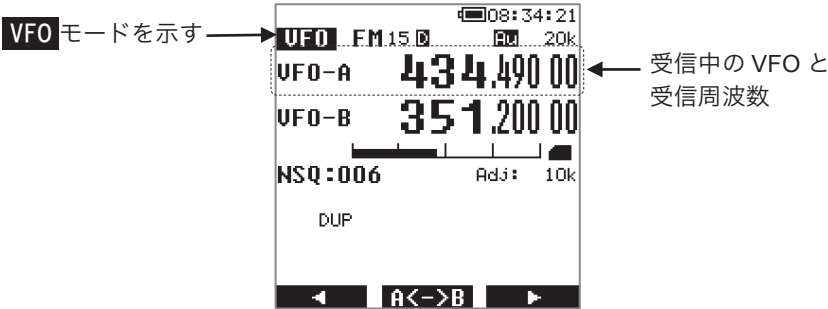
注意：

- ・DIAL をまわして入力位置の文字を変更する場合は、キー入力可能文字の順ではなく、文字表全体の順または逆順になります。
- ・入力文字数を超えて入力できません。超えた場合は右端の文字が削除されます。

### 6.7. VFO モードでの受信

VFO モードは VFO(可変周波数発振器)の周波数を変化させて受信周波数を決める動作です。AR-DV10 は、VFO-A、VFO-B、VFO-Z の 3 つの VFO があり、各 VFO は独立した受信周波数、復調モード、ステップ周波数等を持つことができます。

- ・ 3 つの VFO のうち、いずれかひとつの VFO を選択して、その VFO に設定した周波数を受信します。
- ・ VFO-A と VFO-B は、ディスプレイの受信周波数表示の上段と下段に同時に表示して、上段に表示の VFO の周波数を受信し、[ENT]を押すつど、VFO-A と VFO-B を切り替えます。
- ・ VFO-Z は、他の 2 つの VFO と同じく、その周波数を受信するほかに、サーチやスキャンで停止した周波数を[ENT](S<->Z)を押す操作でコピーして、受信に使用できます。また、そのあとに[ENT](S<->Z)を押す操作で、直前のスキャンまたはサーチ動作の続きに戻ります。



VFO-A を選択

1. [MENU]→[1](VFO)→[1](A)を順に押す

VFO-B を選択

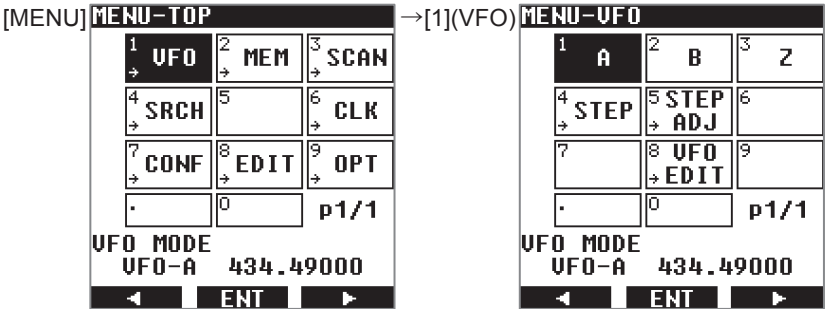
1. [MENU]→[1](VFO)→[2](B)を順に押す

VFO-Z を選択

1. [MENU]→[1](VFO)→[3](Z)を順に押す

VFO-A と VFO-B の切り替え

1. VFO-A または VFO-B 受信中に、[ENT](A<->B)を押す



### 6.7.1. 周波数のあわせかた

VFO モードで、受信周波数をあわせるには次の方法があります。

#### A) キー入力

受信周波数を MHz 単位で[1]～[9] [0]キーを使って入力できます。  
1MHz 未満の数値は、[.] (小数点)キーに続いて入力します。

例) 439.49MHz を入力する場合

[4]→[3]→[9]→[.]→[4]→[9]→[ENT]を順に押す

☐ 入力時の修正(直前入力を 1 文字削除)

[◀](左)を押す

☐ 入力とりやめ(入力をキャンセルして、もとの表示に戻る)

[CLR]を押す

#### B) DIAL をまわす

時計回りにまわすと受信周波数が高くなり、反時計回りにまわすと低くなります。  
この操作での受信周波数の最小の変化量は、ステップ周波数です。(ステップ周波数の設定の項を参照)

#### C) [◀](左)、[▶](右)キーを使う

[▶]を押すと受信周波数が高くなり、[◀]を押すと低くなります。

この操作での受信周波数の最小の変化量は、ステップ周波数の 10 倍です。

ステップ周波数の変更については、次項を参照ください。

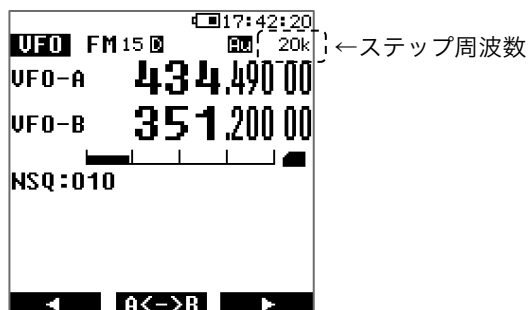
参考：520kHz～1710kHz AM5.5 および AM3.8、64MHz～108MHz FM100 の場合は、ラジオ放送向け専用回路の機能も使用します。

## 6.7.2. ステップ周波数の設定

VFO モードで「DIAL をまわす」操作の場合に、受信周波数の最少の変化量が「ステップ周波数」と呼び、ディスプレイ右上に表示されています。

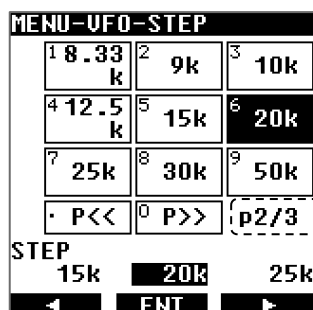
受信周波数は、原則としてステップ周波数で割り切れる周波数に変化します。

ステップ周波数で割り切れない周波数に合わせたい場合は、次項のステップアジャストの設定もあわせて必要です。

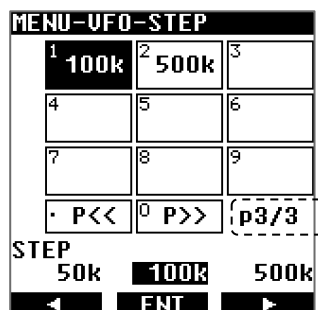


1. [MENU]→[1](VFO)→[4](STEP)を押す

○ ステップ周波数設定メニュー(MENU-VFO-STEP)が表示される。



←ページ番号:2  
ページ数:3



現在の設定値のあるページが表示され、設定値が選択状態になっています。

□ 目的の設定値が表示されていない場合は[.] (P<<)または[0] (P>>)を押して、ページを変更

2. 目的のステップ周波数表示の左上に表示の数字キーを押す

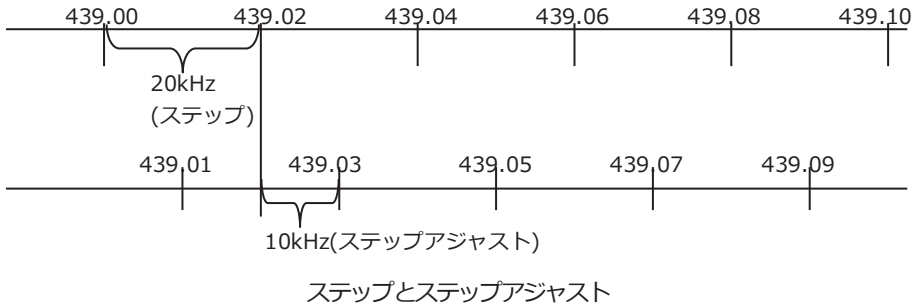
例) 10kHz の場合 .....[3]を押す

○ 目的のステップ周波数になります。

6.7.3. ステップアジャストの設定

受信周波数がステップ周波数で割り切れない特殊な周波数配列の場合はステップアジャストで周波数を合わせることができます。

例)20kHz ステップで 10kHz ステップアジャストの場合



- 1. [MENU]→[1](VFO)→[5](STEP ADJ)を順に押す
  - ステップアジャスト周波数設定メニュー(MENU-VFO-Step ADJ)が表示される。

MENU-VFO-StepADJ		
1 0Hz	2	3 0.05k
4 0.25k	5 0.5k	6 1k
7 2.5k	8 3.12k	9 3.75k
· P<<	0 P>>	p1/2
STEP ADJ		
10k	0k	0.05k
◀	ENT	▶

MENU-VFO-StepADJ		
1 4.16k	2 4.5k	3 5k
4 6.25k	5 7.5k	6 10k
7 12.5k	8 15k	9 25k
· P<<	0 P>>	p2/2
STEP ADJ		
7.50k	10k	0k
◀	ENT	▶

ステップアジャスト周波数はステップ周波数の 2 分の一までの設定値を選択できます。  
□ 目的の設定値が表示されていない場合は[.] (P<<)または[0] (P>>)を押して、ページを変更  
参考：ステップ周波数のちょうど 2 分の一の周波数が目的の設定値になるケースが多いので、  
[.] (P<<)を押して、選択可能な最大値を選択表示すると便利です。  
現在の設定値のあるページが表示 → [.] (P<<)を押す → 前(最終)のページが表示

- 2. 目的のステップアジャスト周波数表示の左上に表示の数字キーを押す  
例) 10kHz の場合 .....[6]を押す

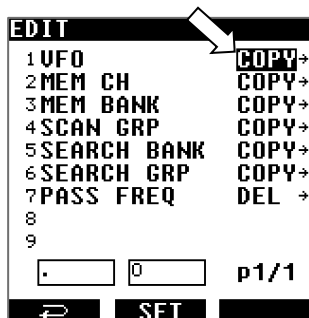
- 目的のステップ周波数になります。
- DIAL をまわす、または、[◀] (左)、[▶] (右)キーを使って、目的のステップアジャスト周波数を選択(黒地白文字)して、[ENT]を押すことでも、同様に変更できます。



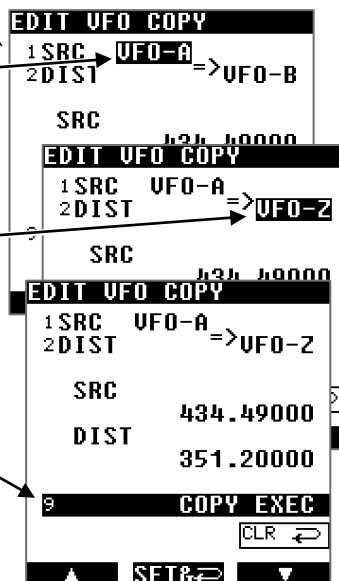
## 6.7.4. VFO コピー

VFO の周波数等を他の VFO にコピーすることができます。

1. [MENU]→[8](EDIT)→[1](VFO)を順に押す  
☐ 編集メニュー(EDIT)が表示され、1 VFO [COPY]が「項目選択モード」になります。  
 (DIAL を操作しても項目値は COPY のまま変わりません)



2. [1](1 VFO COPY) (または、[ENT](SET)) を押す  
☐ EDIT VFO コピーメニュー(EDIT VFO COPY)が表示され、1 SRC [VFO-x]が「項目選択モード」になります。  
 (直前に受信動作していた VFO が項目値になっています)



3. コピー元の VFO が 1 SRC の項目値となるように、必要な場合は DIAL を回して選択して、[ENT](NEXT)を押す  
☐ 2 DIST [VFO-y]が「項目選択モード」になります。
4. コピー先の VFO が 2 DIST の項目値となるように、必要な場合は DIAL を回して選択して、[ENT](NEXT)を押す  
☐ 9 COPY EXEC が「行選択モード」になります。
5. [ENT](SET&↵) (または、[9](COPY EXEC)) を押す  
☐ このとき即時にコピーされます。  
☐ 続けて VFO コピー操作も可能です。(3~5 を繰り返し)
6. 終了する場合は、[CLR]を押して、編集メニュー(EDIT)に戻り、さらに[CLR]を押す  
☐ 受信動作画面に戻ります。

## 6.8. 復調モードと IF 帯域幅

AR-DV10 は、アナログ復調モードの FM、AM、USB、LSB、CW に対応しています。それぞれのアナログ復調モード(特に FM)に対応して、適切な IF 帯域幅を選択しないと正常に受信できない場合があります。

さらに、複数のデジタル復調モードに対応しています。デジタル復調モードでは IF 帯域幅は自動的に選択されます。

### 6.8.1. 復調モード選択

1. [MODE]を押す

○ 復調モード選択メニュー(MODE) (現在の設定値のあるページ)が表示されます。

□ 目的の設定値が表示されていない場合は[.] (P<<)または[0] (P>>)を押して、ページを変更

2. 目的のモード表示の左上に表示の数字キーを押す

例) FM の場合 ..... p2/2 の[4](FM)を押す

○ 目的の復調モードになります。

注意：NXDN は「D-CR」を選択してください。

□ DIAL をまわす、または、[◀](左)、[▶](右)キーを使って、目的の復調モードを選択(黒地白文字)して、[ENT]を押すことでも、同様に変更できます。

□ デジタル復調モードを自動検出したい場合は「1 AUT1」(デジタルオートモード)を選択

○ この場合のアナログ復調モードは FM に固定されて、自動検出できない信号はアナログ FM 復調出力されます。

注意：T-DM(TETRA)は自動検出できません。復調モードに「T-DM」を設定することが必要です。

※ 変更前と異なる復調モードを選択した場合は、IF 帯域幅がその復調モードの初期設定値になります。(ただし、FM 放送帯である 64～107.99999MHz での FM は FM100)

MODE		
1 DSTR	2 YAES	3 DMR
4 D-CR	5 dPMR	6 ALIN
7 P-25	8 T-DM	9
P<<	P>>	p1/2
MODE CW DSTR YAES		
ENT		

MODE		
1 AUT1	2	3
4 FM	5 AM	6 USB
7 LSB	8 CW	9
P<<	P>>	p2/2
MODE T-DM AUT1 FM		
ENT		

### 6.8.2. デジタルオートモードを選択する場合の簡易な方法

1. [MODE](長押し)→[1](AUT1)を順に押す

○ デジタルオートモード表示「FM15 **D** **Au**」になります。  
この場合のアナログ復調モードは FM15 に固定

注意：T-DM は自動検出できません。

6.8.3. IF 帯域幅選択

IF(中間周波数)フィルタの帯域幅は、その復調モードで可能な範囲から選ぶことができますが、IF 帯域幅は復調モードと密接な関係があるため、適切な IF 帯域幅を選択しないと混信や音割れの原因になります。

デジタル復調モードの場合は、各モードに最適な IF 帯域幅が自動で設定され、変更できません。

1. 目的のアナログ復調モードに設定後、  
[MODE](長押し)→[4](IFBW)を順に押す

- IF 帯域幅設定メニュー(Ext.MODE-IFBW)が表示されます。
- 目的の設定値が表示されていない場合は[ . ](P<<)または[0](P>>)を押して、ページを変更

注意：薄い文字の項目は選択できません。

2. 目的の IF 帯域幅表示の左上に表示の数字キーを押す

例) 「<sup>3</sup> 15k」の場合 .....[3](15k)を押す

- 目的の IF 帯域幅になります。
- デジタル復調モードを自動検出したい場合は「<sup>1</sup> AUT1」(デジタルオートモード)を選択

注意：T-DM は自動検出できません。

※ この場合のアナログ復調モードは FM に固定されて、自動検出できない信号はアナログ FM 復調出力されます。手動で任意の IF 帯域幅に設定することはできません。

※ 変更前と異なる復調モードに変更した場合は、IF 帯域幅がその復調モードの初期設定値になります。(ただし、FM 放送帯である 64～107.99999MHz での FM は FM100)

Ext.MODE-IFBW		
1 100k	2 30k	3 15k
4 6k	5	6
7	8	9
.	0	p1/1
◀ ENT ▶		

FM の IF 帯域幅(例)

選択できない項目は薄い文字で表示されます

Ext.MODE-IFBW		
1 500	2 200	3
4	5	6
Ext.MODE-IFBW		
1 2.6k	2 1.8k	3
4	5	6
Ext.MODE-IFBW		
1 15k	2 8k	3 5.5k
4 3.8k	5	6
7	8	9
.	0	p1/1
◀ ENT ▶		

CW の IF 帯域幅

LSB,USB の IF 帯域幅

AM の IF 帯域幅

Ext.MODE-IFBW		
1 100k	2 30k	3 15k
4 6k	5	6
7	8	9
.	0	p1/1
◀ ENT ▶		

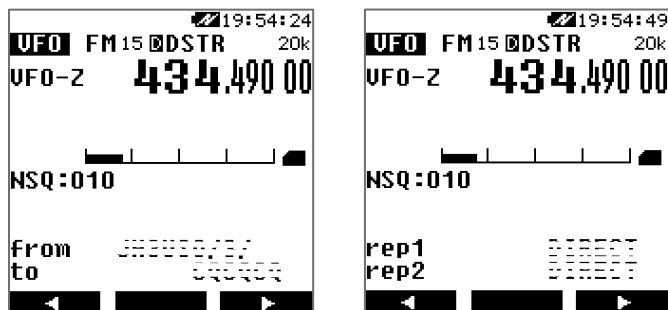
デジタル復調モードの IF 帯域幅(例)

選択した各モードに対応した IF 帯域幅が自動設定されるため、設定値が表示されるのみです。

#### 6.8.4. デジタル復調時に検出した情報等表示

DIGI DIPS を ON にしておくと、受信情報表示欄の 2 行に、デジタル復調で検出した情報等を表示します。

表示項目は、デジタル通信方式により異なります。表示できる情報がない場合があります。送信開始時に情報を含む方式の場合は、その部分が受信できないと検出できません。



デジタル復調 文字情報表示(例)

1. [MODE]を長押し→[6](DIGI DISP)→[1](DISP ON)を順に押す

☐ デジタル復調で検出した情報等を表示

新たな信号を受信するまで、それまでに受信し表示した内容を保持します。  
また、DIAL を操作すると、情報表示は消えます。

☐ オフにする場合

1. [MODE]を長押し→[6](DIGI DISP)→[2](DISP OFF)を順に押す

## 6.8.5. デジタル復調モードの各種設定(デジタル簡易無線秘話コード設定ほか)

デジタルモード復調モードでの復調機能に関する項目を設定できます。

1. [MODE]を長押し→[5](DIG CONF)を順に押す

○ Ext.MODE-DIGI.CONF メニューが開きます。

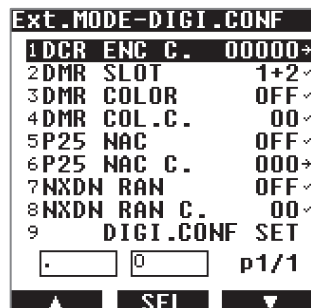
2. 設定したい項目行の番号を[1]～[8]から押して、項目値を設定する

・行の右端に「✓」表示がある項目は、項目を選択して DIAL で内容を切替操作。

・行の右端に「→」表示がある項目は、詳細入力画面が表示されますので、キー入力、または、各桁を DIAL 選択。

3. 項目値を変更後、[9](DIGI.CONF SET)を押す

○ 受信動作画面に戻ります



・ DCR ENC C. デジタル簡易無線 秘話コード設定

秘話コードが設定されている通信は、同じ秘話コードを設定することで正しく復調します。

秘話コード 00001～32767 の範囲内でキー入力

秘話なしの場合は 00000 をキー入力

○ 5 桁入力で、「行選択モード」に戻ります。

・ DMR SLOT 復調スロット設定

目的のスロットの通信を復調します。

SLOT1 優先 1+2

同時の場合に SLOT1 を復調

SLOT2 優先 2+1

同時の場合に SLOT2 を復調

SLOT1 のみ 1

SLOT1 のみ復調

SLOT2 のみ 2

SLOT2 のみ復調

DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

・ DMR COLOR 設定 OFF/ON、COLOR CODE (DIAL 選択)

DMR COLOR 設定が ON のとき、COLOR CODE が不一致の通信の復調音を出力しません。

DMR COLOR OFF/ON は、DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

DMR COL.C.(カラーコード)は、DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

・ P25 NAC 設定 OFF/ON、NAC(3 桁の各桁を DIAL 選択)

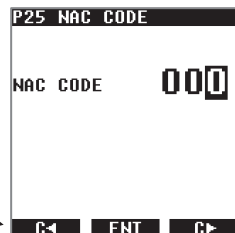
P25 NAC 設定が ON のとき、NAC が不一致の通信の復調音を出力しません。

P25 NAC OFF/ON は、DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

P25 NAC C.(ネットワークアクセスコード)は、各桁を DIAL で選択

DIAL 選択する桁の移動は[◀](C◀)、[▶](C▶)を押す

全桁を設定後に[ENT](ENT)を押す



・ NXDN RAN 設定 OFF/ON、RAN(DIAL 選択)

NXDN RAN 設定が ON のとき、RAN が不一致の通信の復調音を出力しません。

NXDN RAN OFF/ON は、DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

NXDN RAN C.(ラジオ アクセス ナンバー)は、DIAL で選択後に[ENT](SET&↵)を押す

## 7. 各種のスケルチと秘話反転

### 7.1. ノイズスケルチ、レベルスケルチ

ノイズスケルチ、レベルスケルチの動作値は、[SQL/MONI](スケルチ/モニター)スイッチを押してスケルチ表示が黒地白文字の状態では DIAL を回して変更できます。

(再び、[SQL/MONI]スイッチを押してスケルチ表示が黒文字に戻る)

これらの設定は、各 VFO やサーチバンク、メモリチャンネルごとに保持されます。

・**レベルスケルチ(NSQ)**は、電波の強さがある値以下になったときに音声を消す機能で、ノイズ音をカットします。

スケルチが自動選択モードの場合に、復調モードが AM 系(AM、LSB、USB、CW)の場合に動作します。

復調モードに関わらず、動作するように設定することもできます。

・**ノイズスケルチ(LSQ)**は、復調音のノイズの量で判断して音声を消す機能です。

スケルチが自動選択モードの場合に、復調モードが FM の場合にのみ動作します。

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[1](SQL N/L)を順に押す

○ SQL N/L 項目を DIAL で選択可能になります。

2.DIAL を回して機能を選択

**AUTO** 自動選択モード

AM 系(AM、LSB、USB、CW)ではレベルスケルチ(LSQ)が選択され、FM の場合にノイズスケルチ(NSQ)が選択される

**NOISE** ノイズスケルチ

FM でのみ有効

**LEVEL** レベルスケルチ

AM 系および FM で有効

UFO EDIT

1 SQL N/L	AUTO✓
2 SQL TYPE	OFF✓
3 CTCSS	OFF✓
4 DCS CODE	OFF✓
5 AGC	FAST✓
6 OFFSET F.	+0.0M➡
7 V.SCR	OFF✓
8 V.SCR F.	2000✓
9 UFO PARAM SET	
[ ] [ ]	p1/1

⏪ SET&⏩

3. [◀](←)を押す

○ 「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

□ すべての変更入力ののち、[9](VFO PARAM SET)を押す。

○ 受信動作画面に戻ります。

### 7.2. トーン(CTCSS)、DCS、逆トーン(REV.T)の選択

トーン、逆トーン、DCS は、受信信号に含まれる特定のトーンやコードが一致する時に音声が聞こえるように動作するものです。

これらの設定は、各 VFO やサーチバンク、メモリチャンネルごとに保持されます。

FM かつ IF 帯域幅 が 15kHz 以下で設定可能です。

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[2](SQL TYPE)を順に押す

○ SQL TYPE 項目を DIAL で選択可能になります。

UFO EDIT

1 SQL N/L	AUTO✓
2 SQL TYPE	OFF✓
3 CTCSS	OFF✓
4 DCS CODE	OFF✓
5 AGC	FAST✓
6 OFFSET F.	+0.0M➡
7 V.SCR	OFF✓
8 V.SCR F.	2000✓
9 UFO PARAM SET	
[ ] [ ]	p1/1

⏪ SET&⏩

## 2. DIAL を回して機能を選択

トーン、DCS、逆トーンのうち、どれか一つだけを有効にできます。

**OFF** これらの機能はオフ

**CTCSS** トーンスケルチ(CTCSS)を有効 (CTCSS 周波数設定必要)  
設定した CTCSS 周波数のトーンを検出した場合にスケルチが開きます。

**DCS** DCS を有効 (DCS コード設定必要)  
設定した DCS コードを検出した場合にスケルチが開きます。

**REV.T** 逆トーンスケルチを有効 (CTCSS と同じ周波数設定で動作)  
通話がないときに発信されるトーンが、CTCSS トーン周波数と一致する場合は  
トーンが途切れて通話が始めるとスケルチが開きます。

○ここでの設定が OFF 以外で、かつ、復調モードが FM かつ IF 帯域幅 が 15kHz 以下の場  
合に、選択されている機能がディスプレイの設定表示領域に表示されます。

## 3. [◀](↶)を押す

○「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

### 7.2.1. CTCSS トーンスケルチ、REV.T 逆トーンのトーン周波数

[2](SQL TYPE)で CTCSS を選択した場合に使用

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[3](CTCSS)を順に押す

○CTCSS 項目を DIAL で選択可能になります。

UFO EDIT	
1 SQL N/L	AUTO✓
2 SQL TYPE	CTCSS✓
3 CTCSS	SRCH✓
4 DCS CODE	OFF✓
5 AGC	FAST✓
6 OFFSET F.	+0.0M✓
7 U.SCR	OFF✓
8 U.SCR F.	2000✓
9 UFO PARAM SET	
[ ] [ ]	p1/1
[↶] SET&[↶]	

## 2. DIAL を回して CTCSS 周波数を選択

選択できる CTCSS 周波数は次のとおり

OFF	SRCH	60.0	67.0	69.3
71.9	74.4	77.0	79.7	82.5
85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8
118.8	120.0	123.0	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7
159.8	162.2	165.5	167.9	171.3
173.8	177.3	179.9	183.5	186.2
189.9	192.8	196.6	199.5	203.5
206.5	210.7	218.1	225.7	229.1
233.6	241.8	250.3	254.1	

「SRCH」はこれらのうち、いずれかのトーンを検出した場合に CTCSS ではスケルチが開  
きます。逆トーンでは、いずれかのトーンを検出した場合はスケルチが開きません。

## 3. [◀](↶)を押す

○「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

□ すべての変更入力のための、[9](VFO PARAM SET)を押す。

○ 受信動作画面に戻ります。

## 7.2.2. DCS コード

[2](SQL TYPE)で DCS を選択した場合に使用

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[4](DCS CODE)を順に押す

○DCS CODE 項目を DIAL で選択可能になります。

UFO EDIT		
1 SQL N/L	AUTO	✓
2 SQL TYPE	DCS	✓
3 CTCSS	OFF	✓
4 DCS CODE	SRCH	✓
5 AGC	FAST	✓
6 OFFSET F.	+0.0M	→
7 V.SCR	OFF	✓
8 V.SCR F.	2000	✓
9	UFO PARAM SET	
[ ] [0]		p1/1
[↩] SET& [↩]		

2. DIAL を回して DCS コードを選択

選択できる DCS コードは次のとおり

OFF	SRCH	017	023	025	026	031	032	036	043
047	050	051	053	054	065	071	072	073	074
114	115	116	122	125	131	132	134	143	145
152	155	156	162	165	172	174	205	212	223
225	226	243	244	245	246	251	252	255	261
263	265	266	271	274	306	311	315	325	331
332	343	346	351	356	364	365	371	411	412
413	423	431	432	445	446	452	454	455	462
464	465	466	503	506	516	523	526	532	546
565	606	612	624	627	631	632	654	662	664
703	712	723	731	732	734	743	754		

「SRCH」は DCS コードのうちどれかを検出した場合スケルチが開きます。

3. [◀](↶)を押す

○「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

□ すべての変更入力ののち、[9](VFO PARAM SET)を押す。

○受信動作画面に戻ります。

## 7.3. V.SCR 秘話反転(VI)

秘話反転は音声反転型の通信を受信する機能です。(米国の民生用途向けバージョンには搭載していません)

秘話反転(VI)周波数を受信音声聞きやすいように合わせる必要があります。

FM かつ IF 帯域幅 が 15kHz 以下で設定可能です。

### ・V.SCR 秘話反転(VI) OFF/ON

秘話反転機能(VI)を有効(ON)/無効(OFF)を設定します。

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[7](V.SCR)を順に押す

○V.SCR 項目を DIAL で選択可能になります。

2. DIAL を回して秘話反転機能の ON/OFF を選択

3. [◀](↶)を押す

○「行選択モード」に戻ります。秘話反転周波数を変更する場合は続いて変更設定します。

UFO EDIT		
1 SQL N/L	AUTO	✓
2 SQL TYPE	OFF	✓
3 CTCSS	OFF	✓
4 DCS CODE	OFF	✓
5 AGC	FAST	✓
6 OFFSET F.	+0.0M	→
7 V.SCR	ON	✓
8 V.SCR F.	2000	✓
9	UFO PARAM SET	
[ ] [0]		p1/1
[↩] SET& [↩]		



## ・ V.SCR F. 秘話反転(VI)周波数

「7 V.SCR ON」の場合に変更できます。受信音声が最も聴きやすい周波数に設定します。

1. V.SCR ON の次の行の項目を選択するために、[8](V.SCR F.)を押す

○V.SCR F.項目が DIAL で選択可能になります。

2. DIAL を回して秘話反転周波数を聴きやすい周波数に合わせます。

設定可能な周波数は 2000~7000Hz のうち 10Hz 単位のいずれかです。

3. [◀](←)を押す

○「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

□ すべての変更入力のための、[9](VFO PARAM SET)を押す。

○ 受信動作画面に戻ります。

## 7.4. その他の VFO 設定項目

### 7.4.1. AGC 設定

内部でデジタル的に実現している AGC のリリース時間の変更を行います。

AM 系の復調モード(AM、USB、LSB、CW)で設定可能です。

リリース時間とは AM 系の信号で時間により信号の高度が変化する場合(CW や SSB など)信号が受かった瞬間に AGC を働かせ(ゲインを下げる)、弱くなったときに徐々に AGC を弱める(ゲインを上げる)時間のことです。

この時間を短くすると SSB の無音時や CW の送信していない瞬間にゲインがあがるために雑音が増えた感覚になり、長くしすぎるとなかなかゲインが上がらずに次に出てきた弱い信号が受信できないことになります。

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[5](AGC)を順に押す

○AGC 項目を DIAL で選択可能になります。

2. DIAL を回して目的の内容を選択

FAST : AGC ファスト

MID : AGC ミドル

SLOW : AGC スロー

RF-G : マニュアル ゲイン

3. [◀](←)を押す

○「行選択モード」に戻ります。続けて他の項目行の変更が可能です。

□ すべての変更入力のための、[9](VFO PARAM SET)を押す

○ 受信動作画面に戻ります。

□ ここで RF-G を選択した場合は、

[MENU]→[7](CONF)→[8](RF-GAIN)

で RF ゲインを設定します。

RF ゲインは手で受信機のゲイン(増幅度)を調整します。

SSB や CW の受信の場合 RF ゲインにより感度を落として受信したほうが、雑音が少なくなり聞きやすくなります。

受信状況により使用してください。

VFO EDIT		
1	SQL N/L	AUTO✓
2	SQL TYPE	OFF✓
3	CTCSS	OFF✓
4	DCS CODE	OFF✓
5	AGC	FAST✓
6	OFFSET F.	+0.0M→
7	V.SCR	OFF✓
8	V.SCR F.	2000✓
9	VFO PARAM SET	
	[ ] [0]	p1/1
[←] SET&[→]		

MENU-CONFIG		
1	BEEP	05✓
2	VOL ATT	05✓
3	CONTRAST	30✓
4	BACKLIGHT	AUTO✓
5	SQL SKIP	ON✓
6	RES. CODE	ON✓
7	PROTECT	OFF✓
8	RF-GAIN	000✓
9		
	[P<<] [P>>]	p1/2
[←] ENT [→]		

## 7.4.2. オフセット受信設定

本機は、受信周波数に対して一定の周波数だけ離れた周波数の信号を簡便な操作で切替えて受信することができます。

基地局と移動局や中継局など、2つの周波数で相互に送信する2周波方式の無線通信などの受信に向いています。

2つの周波数の差がオフセット周波数です。

2つめの周波数がVFOの周波数より高い場合は「+」、低い場合は「-」値になります。

オフセット周波数は、番号00～39の記憶領域から選択して設定します。

00： オフセット受信しない（固定値）

01～19： 手動設定可能

20～39： プリセット値（固定値）

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[6](OFFSET F.)を順に押す

○ オフセット受信設定・選択メニューになります。

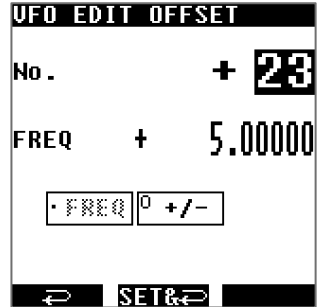
2. 表示されるオフセット周波数(FREQ)を確認しながら、DIALで目的のオフセット周波数が設定された番号を選択

○ オフセット受信をしない場合は、番号00を選択してください。

□ 2つめの周波数がVFOの周波数より低い場合は[0](+/-)を押すことで、「+」と「-」を切替えます。

3. [ENT](SET&↵)を押す

○ 前メニューの「行選択モード」に戻ります。



## 7.4.3. オフセット周波数の登録

番号01～19は自由に登録可能です。番号20～39に目的のプリセット値がない場合はオフセット周波数を登録してお使いください。

1. [MENU]→[1](VFO)→[8](VFO EDIT)→[6](OFFSET F.)を順に押す

○ オフセット受信設定・選択メニューになります。

2. DIALで01～19から登録する番号を選択

□ 2つめの周波数がVFOの周波数より低い場合は[0](+/-)を押すことで、「+」と「-」を切替えます。

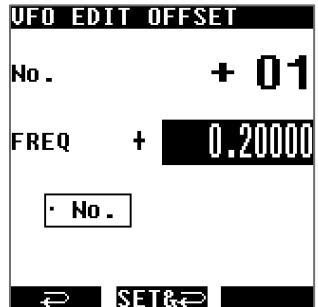
3. [.] (FREQ)を押したあと、数字キーでオフセット周波数(単位MHz)を入力

4. [ENT] (SET&↵)を押す

○ 前メニューの「行選択モード」に戻ります。

□ すべての変更入力ののち、[9](VFO PARAM SET)を押す。

○ 受信動作画面に戻ります。





## 8. 録音

AR-DV10 は microSD カードに受信音声(モノラル)を録音できます。

対応する microSD カードについて、および、microSD カードの取り付けと取り外しについては、p.26 「microSD カードについて」の該当の項目をお読みください。

注意：

- ・ microSD カードの取り付け・取り外しは本機の電源を切った状態でおこなってください。
- ・ ディスプレイの  SD カードアイコンが点滅している場合は、認識が完了していません。16GB、32GB などの容量の大きな microSD カードや多数のファイルが記録されている場合に時間がかかる(数分)場合があります。
- ・ ディスプレイに  SD カードアイコン表示がない場合は、正しく認識していません。対応 microSD カード(かつ、対象フォーマット形式)であるか、もしくは、パソコン等で正常に使用できるか確認してください。microSD カードの端子が汚れている場合は、乾いた布か綿棒で清掃してください。
- ・ 録音中( **REC** 表示中)や各種メモリデータ等のバックアップ中などの記録動作中(スケルチ・スキップ中を含む)に microSD カードを取り外さないでください。

### 8.1. 録音ファイルについて


- ・ 録音ファイルは、microSD カードを開いたすぐ中のディレクトリに保存されます。
- ・ 録音ファイル名は数字8桁の番号と拡張子「.WAV」(例：00000001.WAV)の形式です。
- ・ 保存ディレクトリに、番号と拡張子「.WAV」形式のファイル名のファイルが存在する場合は、最大の番号に1を加えた番号のファイル名が自動的に割り当てられます。
- ・ ファイル名が「99999999.WAV」のファイルが存在する場合は、録音できません。
- ・ 録音したファイルは、本機で再生できるほか、microSD カードをパソコン等に(アダプタが必要な場合があります)取り付けて一般的な音声データファイル再生ソフトウェア(Windows10 標準の Groove ミュージックほか)を使って再生することができます。

本機で録音ファイルを再生する操作については、p.73 「SD カード操作」の項をご覧ください。

### 8.2. 録音時間について

- ・ 長時間の録音の場合は、約 100MB(約 21.7 分)ごとに新たなファイル名のファイルに自動分割します。
- ・ 録音時間は、SD カード容量 1GB あたり約 3.6 時間です。
- ・ microSD カードの空き容量が少ない場合は録音できません。

### 8.3. 録音開始／終了

 SD カードアイコン表示がある状態で操作してください。

SQL.SKIP (スケルチ スキップ) を ON に設定している場合は、スケルチが閉じているときは録音を一時停止し(録音ファイルが増大しない)、スケルチが開いているときのみ録音を行ないます。

参考：SQL.SKIP は、[MENU]→[7](CONF)→[5](SQL.SKIP)で設定変更できます。

#### 録音開始

1. 録音を開始するには、[ ● ] (録音)キーを押す
- 録音が始まり、ディスプレイに **REC** (録音中)表示

#### 録音終了

1. 録音を終了するには、[ ● ] (録音)キーを押す
- 録音を終了し、ディスプレイの **REC** (録音中)表示が消える

**注意：**録音中のファイルが大きい場合にファイル書き込み終了処理に時間がかかるため、録音終了操作したあと、録音を終了し、**REC** (録音中)表示が消えるまでに、しばらく時間がかかる場合があります。

## 9. メモリチャンネル読み出しモードとスキャンモード

メモリチャンネルには1つの周波数と復調モード、IF帯域幅などのデータを登録します。メモリチャンネル読み出しモードは、これを読み出してその内容で受信します。メモリチャンネルは、40組のメモリバンク(00～39)に各50チャンネル(00～49)の合計2000チャンネルあります。

スキャンモードは選択したメモリバンク内に登録されたメモリチャンネルを順に受信して信号を探す機能です。

スキャン条件を目的別に登録しておくスキニンググループが10組(スキニンググループ番号0～9)あり、スキャン条件(ポーズ時間、ディレー時間等)、および、複数のメモリバンクを連続してスキャンするバンクリンク設定ができます。

スケルチが開く信号を探しますので、スケルチ調整はノイズが消えるぎりぎりの位置に合わせてください。

**注意：**メモリチャンネルに何も設定されていない場合は、メモリチャンネル読み出しモードやスキャンモードにはなりません。

### 9.1. メモリチャンネル読み出しモード

メモリチャンネルを読み出してその登録内容(周波数等)で受信します。

1. [MENU]→[2](MEM)→[1](EXEC)を順に押す

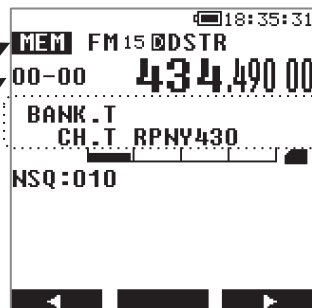
○ メモリチャンネル読み出しモードになります。

**MEM** メモリチャンネル読み出しモードを示す

メモリバンク番号-メモリチャンネル番号

メモリバンクタイトル

メモリチャンネルタイトル



◎メモリチャンネルを変更する方法

○ DIAL をまわして、メモリチャンネルを変更できます。

※ 登録のあるメモリバンク・メモリチャンネルの順に選択できます。

○ バンク番号(2桁)、メモリチャンネル番号(2桁)を数字キーで順に押すことで、そのメモリチャンネルを呼び出すことができます。([ENT] キーは不要)

(例: メモリバンク 01 のメモリチャンネル 07 の場合 [0]→[1]→[0]→[7]を順に押す)

※ 指定したメモリチャンネルが登録されていないとエラーになります。

◎復調モードやIF帯域幅を変更する場合

○ あるチャンネルを受信中に復調モードやIF帯域幅などを変更すると、変更内容がそのチャンネル登録内容に反映されます。

○ チャンネル登録内容に反映することなく、一時的に変更したい場合は、あらかじめその**メモリチャンネル**について

[MENU]→[2](MEM)→[8](CH EDIT)→[7](PROTECT)を ON

にしておきます。この場合は、そのチャンネルに留まっている間のみ一時変更状態となり、そのチャンネルから抜けるとき一時変更内容はキャンセルされます。

○ 一時的に変更したチャンネルに留まっている状態で

[MENU]→[2](MEM)→[8](CH EDIT)→[7]PROTECT を ON から OFF に切り替えると、一時変更ではなくチャンネル登録内容に反映されます。

## 9.2. メモリチャンネル登録

メモリチャンネルには 1 つの周波数とテキスト(タイトル)を書き込むことができます。VFO モードで受信している状態、復調モード、IF 帯域幅、受信オプションの設定などの各種の設定をメモリチャンネルに書き込むことができます。

1. VFO モードで受信している状態で、[ENT]を長押し

○ メモリチャンネル登録メニュー(MEM CH REG)になります。  
このときに選択されているメモリバンクは「登録済チャンネルを持つ最大の番号のバンク」、メモリチャンネルは「そのバンクの登録済チャンネルで最大の番号のチャンネルの次の空きチャンネル」です。

- ・もし、空きチャンネルがない場合は次のバンクになります。
- ・バンク 39 の最後のチャンネルが登録済の場合は、逆方向(チャンネル番号、バンク番号が小さくなる方向)に空きチャンネルを探します。
- ・それも無い場合はバンク 00 のチャンネル 00 を選択します。

□ 登録するメモリバンクとメモリチャンネルを任意に変更するには、

[1](BANK-CH)を押し、  
入力画面で、バンク番号、チャンネル番号の順に 4 桁の数字をキー入力  
○ そのチャンネルを表示し、既登録の場合はそのチャンネルタイトル(T:)が表示されます。

2. チャンネルタイトルを登録・変更するために、

[7](T:)を押す  
○ チャンネルタイトル入力画面(CH EDIT TITLE)が開きます。

3. チャンネルタイトル(最大 12 文字)を「文字入力欄での文字や記号の入力」の方法で入力し、  
[ENT](SET&↵)を押す

□ このチャンネル登録内容を保護する場合は、  
[8](PROTECT)を押し、DIAL をまわして ON を選択し、  
[◀](↵)を押す

○ もとのメニューに戻ります。

4. [9](MEM CH PARAM SET)を押す

○メモリチャンネル登録を完了し、もとの受信動作画面に戻ります。

MEM CH REG 01-10	
1 BANK-CH	01-10→
2 FREQ.	434.49000→
3	
4 MODE	AUT1✓
5 IFBW	15k✓
6 PASS	OFF✓
7 T:	→
8 PROTECT	OFF✓
9 MEM CH PARAM SET	
. P<< 0 P>> p1/2	
▲ SEL ▼	

CH EDIT TITLE		
1 ABC	2 DEF	3 GHI
4 JKL	5 MNO	6 PQRS
7 TUV	8 WXYZ	9 +-* /
. ▲ 0 [ ] _ , . #		
02-00		
. SET&↵ .		

MEM CH REG 02-00	
1 BANK-CH	02-00→
2 FREQ.	434.49000→
3	
4 MODE	AUT1✓
5 IFBW	15k✓
6 PASS	OFF✓
7 T: CH TITLE	→
8 PROTECT	OFF✓
9 MEM CH PARAM SET	
. P<< 0 P>> p1/2	
▲ SEL ▼	

### 9.3. メモリチャンネル編集

メモリチャンネルの登録内容はあとから編集できます。

1. [MENU]→[2](MEM)→[8](CH EDIT)→[1](BANK-CH)を順に押す
2. 編集したいメモリバンク番号 (2桁)とメモリチャンネル番号(2桁)を数字キーで続けて入力  
○ 現在のメモリチャンネル設定内容が表示されます。
3. 編集したい項目をリスト式メニューの操作方法に従って変更する

p1/2 ページ

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| (1 BANK-CH | バンク番号-チャンネル番号 呼び出しのみ) |
| 2 FREQ.    | 受信周波数                 |
| 3          | (割当なし)                |
| 4 MODE     | 復調モード                 |
| 5 IFBW     | IF 帯域幅                |
| 6 PASS     | メモリチャンネルパス            |
| 7 T:       | チャンネルタイトル             |
| 8 PROTECT  | メモリチャンネル保護            |
| 9          | MEM CH PARAM SET      |

MEM CH EDIT 00-00	
1 BANK-CH	00-00→
2 FREQ.	434.49000→
3	
4 MODE	DSTR✓
5 IFBW	15k✓
6 PASS	OFF✓
7 T:	RPNV430 →
8 PROTECT	OFF✓
9	MEM CH PARAM SET
[P<<] [P>>] p1/2	
▲ SEL ▼	

p2/2 ページ

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1 SQL N/L   | ノイズスケルチ、レベルスケルチ     |
| 2 SQL TYPE  | トーン、DCS、逆トーン        |
| 3 CTCSS     | トーンスケルチ、逆トーンのトーン周波数 |
| 4 DCS CODE  | DCS コード             |
| 5 AGC       | AGC 設定              |
| 6 OFFSET F. | オフセット受信設定           |
| 7 V.SCR     | 秘話反転                |
| 8 V/SCR F.  | 秘話反転周波数             |
| 9           | MEM CH PARAM SET    |

MEM CH EDIT 00-00	
1 SQL N/L	AUTO✓
2 SQL TYPE	OFF✓
3 CTCSS	OFF✓
4 DCS CODE	OFF✓
5 AGC	FAST✓
6 OFFSET F.	+0.0M→
7 V.SCR	OFF✓
8 V/SCR F.	2000✓
9	MEM CH PARAM SET
[P<<] [P>>] p2/2	
▲ SEL ▼	

p2/2 ページの項目は、VFO EDIT メニューと同じです。  
同じ要領で設定してください。

4. すべての変更が済んだら[9](MEM CH PARAM SET)を押す  
○ このメニューの入力内容を登録して、受信動作画面に戻ります。

注意：

・DIGI CONF、DIGI DISP、アッテネータ、イヤホンアンテナの編集はこのメニューではできません。メモリチャンネルの保護

[MENU]→[2](MEM)→[8](CH EDIT)→[8](PROTECT)を OFF

にして、メモリチャンネル読み出しモードで受信中にこれらを変更することで登録内容に反映されます。

・他の項目との関連で、選択できない項目は薄い文字で表示されます。

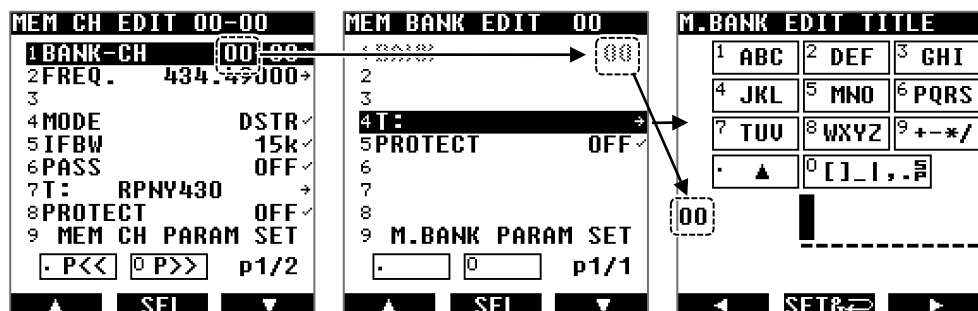
## 9.4. メモリバンク設定

メモリバンクにはタイトルを設定、あるいは、メモリバンク保護を設定できます。  
メモリチャンネル編集メニュー(MEM CH EDIT)で選択しているメモリチャンネルのメモリバンク番号に対して設定します。

1. [MENU]→[2](MEM)→[8](CH EDIT)→[1](BANK-CH)を順に押す
2. 目的のメモリバンクの登録済のバンク番号(2桁)、メモリチャンネル番号(2桁)を数字キーで順に押し、[SET&↵]を押す
  - 目的のメモリチャンネル内容を表示します。

注意：メモリチャンネルの登録のないメモリバンクは選択できません。

3. [9](MEM CH PARAM SET)を押す



4. [MENU]→[2](MEM)→[3](BANK EDIT)→[4](T:)を順に押す
  - 上で選択したメモリバンクについて、メモリバンクタイトル編集画面(M.BANK EDIT TITLE)が開きます。入力欄の左側に目的にメモリバンク番号が表示されます。
5. メモリバンクタイトル(最大 12 文字)を「文字や記号の入力の方法」で入力して [ENT](SET&↵)を押す
  - もとのメニューの「行選択モード」に戻ります。
  - メモリバンク保護する場合は、[5](PROTECT)を押し、DIAL を回して ON/OFF を選択して、[◀](↵)を押す
  - もとのメニューの「行選択モード」に戻ります。
6. [9](M.BANK PARAM SET)を押す
  - 受信動作画面に戻ります

注意：

- ・メモリバンク編集メニュー(MEM BANK EDIT)ではバンク番号(1 BANK)を変更できません。

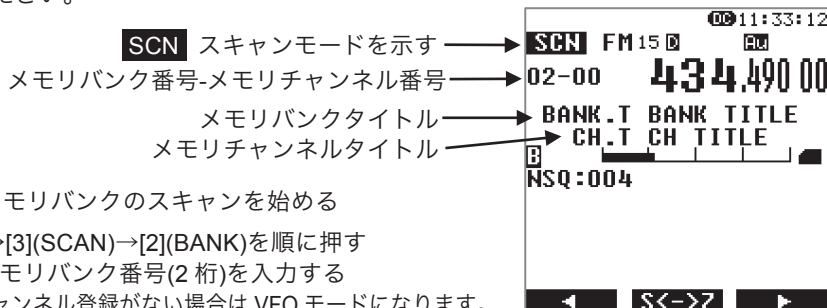


## 9.5. スキャンモード

スキャンモードは選択したメモリバンク内に登録されたメモリチャンネルを順に受信して信号を探します。

スキャン条件を目的別に登録しておくスキヤングループが10組(スキヤングループ番号0～9)あります。スキャン条件(ディレー時間、フリー時間)設定、および、複数のメモリバンクを連続してスキャンするバンクリンク設定ができます。

受信信号があると停止して受信します。スケルチツマミはノイズが消えるぎりぎりの位置に合わせてください。



### □ 目的のメモリバンクのスキャンを始める

1. [MENU]→[3](SCAN)→[2](BANK)を順に押す

2. 目的のメモリバンク番号(2桁)を入力する

※ メモリチャンネル登録がない場合は VFO モードになります。

### □ 使用するメモリバンクを変更する場合

目的のメモリバンク番号(2桁)を数字キーで入力

### □ スキャン方向を変更する場合

[◀]または[▶]を押す、あるいは、DIAL をまわす

□ 受信信号で停止中に DIAL をまわす、または、[◀](左)、[▶](右)を押すと次(隣接)のチャンネルに移りスキャン検索を再開します。

○ 選択したスキヤングループにバンクリンクされていないメモリバンクをスキャンする場合、同じバンク内のスキャンを繰り返します。

○ 選択したスキヤングループにバンクリンク登録のあるメモリバンクを選ぶことでバンクリンクした複数のメモリバンクを順にスキャンを繰り返します。

○ 受信信号で停止中に復調モードなどを変更すると、変更内容がそのチャンネルに反映されます。(メモリチャンネル保護 PROTECT OFF の場合)

## 9.5.1. スキヤングループ設定

スキヤングループは、スキャン時の動作を指定するスキャン条件(ディレー時間、フリー時間)の設定、および、複数のメモリバンクを連続してスキャンするバンクリンク設定ができ、目的別に登録しておく、必要時にスキヤングループを選択すれば同じ条件で受信することができます。

スキヤングループは10組あり、0～9のスキヤングループ番号で区別します。

1つのスキヤングループには次の項目を登録できます。

- バンクリンクするバンク番号
- ディレー時間
- フリー時間

1. [MENU]→[3](SCAN)→[6](GRP EDIT)→[1](GROUP)を順に押す  
○ スキャングループ番号入力画面(GRP EDIT GRP)が開きます。
2. 登録するグループ番号を数字キー(例：[0])で押す  
○ リスト式メニューに戻ります
3. 以下の要領で必要な項目を設定

## 2～5 BANK LINK バンクリンク

バンクリンク設定すると、選択したメモリバンクのいずれかでスキャンを開始するとき、リンクしたメモリバンクを連続してスキャンします。

選択していないメモリバンクでスキャンを開始した場合は、スキャン条件のみ使用します。

SCAN GROUP EDIT																
1 GROUP																0 ✓
00	01	02	03	04	05	06	07	08	09							
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19							
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29							
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39							
6 DELAY																2.0 ✓
7 FREE																OFF ✓
8																
9 SCAN GROUP SET																
.										0	p1/1					
▲										SEL		▼				

1. バンクリンクはリスト式メニューの2行～5行めに割り当てられていますので、各行を指定する場合に[2]～[5]キーを押すことで、その行の先頭が選択位置(点滅)になります。
2. DIAL を回す(または、[◀](左)、[▶](右)キーを押す)ことでバンク番号の選択位置(点滅)を移動して、目的のバンク番号で[.](ON)キーを押すことで、リンク設定します。

**00 01** 02 03 04 05 06 07 08 09  
 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29  
 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39

□ 再度[.](ON)キーを押すことで解除します。

3. 1行分のリンク設定ができたなら[ENT](SET&↵)を押す。  
○ 設定登録して2～5行が「行選択モード」になります。

□他に設定項目がなければ、入力値を登録するために[9] SCAN GROUP SET を押す。

○設定登録してスキャングループ設定を終わります。

## 6 DELAY ディレイ時間

信号がとぎれてスケルチが閉じてから、スキャンを再開するまでの遅延時間です。  
この時間内に再び信号が検出されれば再びスケルチ閉じてからの遅延時間になります。

**OFF**(遅延なし)、および **0.1～10.0** 秒を 0.1 秒単位から選択します。(初期値 2.0)

## 7 FREE フリー時間

信号がとぎれない場合でもスケルチが開たときからこの時間後にスキャンを再開します。

**OFF**(スケルチが閉じるまで再開しない)、および **1～60** 秒を 1 秒単位から選択します。(初期値:OFF)

### 9.5.2. 使用するスキャングループ番号の選択

スキャン条件を設定したスキャングループ番号を選択します。

1. [MENU]→[3](SCAN)→[3](GRP)を順に押す

○ スキャングループ入力画面(SCAN GRP)が開きます。

2. スキャンで使用するスキャングループ番号を数字キーで入力

○ このあとにスキャンを開始するとき、ここで選択したスキャングループに登録のスキャン条件で受信します。

○ バンクリンク登録していないメモリバンクを選んでスキャンすることもできます。この場合は、バンクリンク設定以外の条件(ディレー時間、フリー時間)のみ使用します。

○ 選択したスキャングループにバンクリンク設定してあると、バンクリンクしたいいずれかのメモリバンク番号を選ぶことでバンクリンクした複数のメモリバンクを順にスキャンします。

SCAN GRP

GROUP 0

← ENT →

### 9.5.3. バンク番号を指定してスキャン開始

指定したメモリバンク内に登録されたメモリチャンネルを順にスキャンを開始します。

1. [MENU]→[3](SCAN)→[2](BANK)を順に押す

○ スキャン開始バンク入力画面(SCAN BANK)が開きます。

2. スキャンを開始するバンク番号を数字キーで入力

○ スキャンモードになり、指定したメモリバンクに登録のメモリチャンネルのスキャンを開始します。

SCAN BANK

BANK 02

← ENT →

### 9.5.4. メモリチャンネルパス登録と解除

スキャン中に受信する必要のないチャンネルにはパス登録すると以後はスキャン中に信号があっても無視します。

この操作により書き込まれているメモリチャンネルの内容は消去されません。

メモリチャンネル読み出し時にはそのまま読み出せ、パスを解除することができます。

メモリチャンネル読み出しモードかスキャンモード中に信号を受けて停止中の時にメモリチャンネルパスの ON/OFF を登録します。

1. 目的のメモリチャンネルを受信中(スキャンモード中に信号を受けて停止中)に、

[MENU]→[3](SCAN)→[4](PASS ON)を順に押す

○ メモリチャンネル読み出しモードの時、あるいは、スキャンモードで信号を受けて停止中にパス設定できます。

○ スキャンモードの検索中には設定できません。

□ 登録解除は、メモリチャンネル読み出しモードで、そのチャンネル(PAS 表示あり)を受信中に行います。

[MENU]→[3](SCAN)→[5](PASS OFF)を順に押す

MENU-SCAN

1 EXEC	2 BANK	3 GRP
4 PASS ON	5	6 GRP EDIT
7	8	9
.	0	p1/1

← ENT →

### 9.5.5. スキャンモードの停止中のメモリバンク内容の変更

スキャンモードで、あるチャンネルで信号を受信して停止中に復調モードや IF 帯域幅などを変更すると、変更内容がそのバンクに反映されます。

もし一時的な変更としたい場合は、あらかじめメモリチャンネル編集メニュー(MEM CH EDIT)の PROTECT を ON にします。

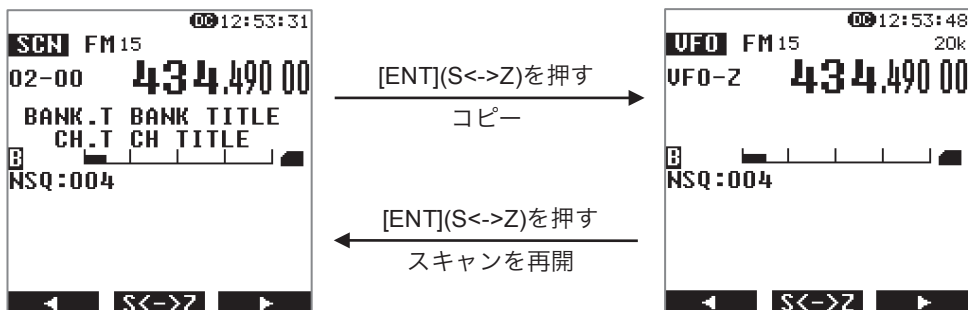
この場合、一時的な変更内容が有効な期間は

- ・スキャンモード以外の動作モードに移動するまで
- ・他のバンクとのバンクリンクが設定されていない場合は、他のバンクに移動するまで
- ・他のバンクとのバンクリンクが設定されている場合は、バンクリンクされていない他のバンクに移動するまで

のいずれかで、上記期間を超えると一時的な変更内容は消えます。

### 9.5.6. スキャンモードの停止中の VFO へのコピー

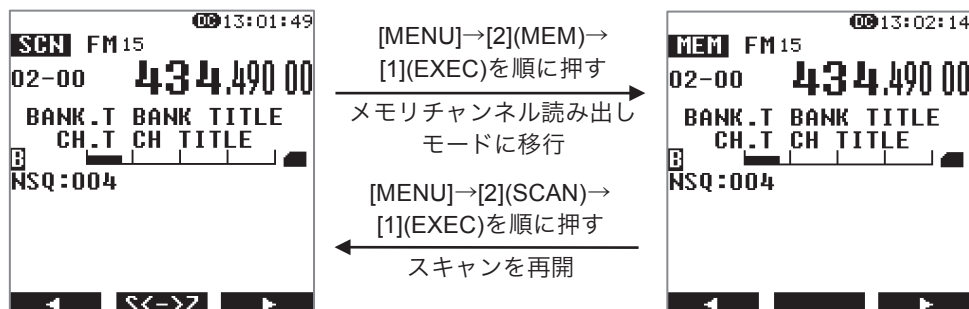
スキャンモードで、あるチャンネルで信号を受信して停止中に受信周波数、復調モード、IF 帯域幅などを VFO-Z にコピーして、VFO-Z に切替えて受信することができます。



☐ スキャンを再開することもできます。

## 9.5.7. スキャンモードの停止中のメモリチャンネル読み出しモードへの移行

スキャンモードで、あるチャンネルで信号を受信して停止中に、そのメモリチャンネルのままメモリチャンネル読み出しモードに移行して受信することができます。

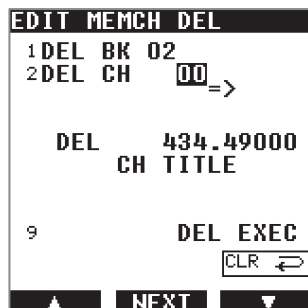
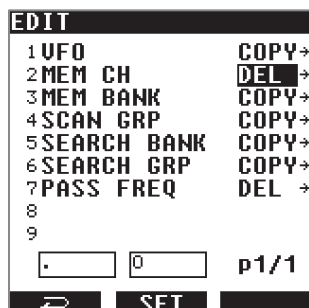


□ スキャンを再開することもできます。

## 9.5.8. メモリチャンネルの消去

メモリチャンネル読み出しモードで受信しているメモリチャンネルを消去します。  
一度消去したメモリチャンネルは復活できません。

- [MENU]→[8](EDIT)→[2](MEM CH)を順に押す
  - 編集メニュー(EDIT)が表示され、2 MEM CH が項目値選択モードになります
- DIAL をまわして、DEL を選択して、[ENT](SET)を押す
  - メモリチャンネル消去メニュー(EDIT MEMCH DEL)が表示されます
- 1 DEL BK で目的のメモリチャンネルのバンク番号を DIAL で選択し[ENT](NEXT)を押す
- 2 DEL CH で目的のメモリチャンネル番号を DIAL で選択し[ENT](NEXT)を押す
  - 目的のメモリチャンネルの内容(周波数、タイトル)が表示され、9 DEL EXEC が行選択モードになります
- [ENT](SET&↵)を押す
  - 「WRITING MEMORY...」が表示され選択したメモリチャンネルが消去されます。
  - 続けて、同様の操作で別のメモリチャンネルの消去もできます。
  - 終了する場合は、[CLR]を2回押す。受信動作画面に戻ります。



## 10. プライオリティ受信

指定されたプライオリティ(優先)チャンネルをスキャンやサーチ、各 VFO、メモリチャンネル読み出しモードなどすべての状態において、指定されたインターバル時間の間隔で受信チェックを行い、プライオリティチャンネルを優先的に受信する機能です。

プライオリティチャンネルの通信が終了した後は元の動作に戻ります。

プライオリティ機能を使用していて、ある周波数を連続受信している場合など、プライオリティチャンネルとの切り替わりのつど、プツ、プツと音がする場合があります。

### 10.1. プライオリティ受信設定

プライオリティ受信したい周波数は、あらかじめメモリチャンネルに登録しておきます。

1. [MENU]→[2](MEM)→[7](PRIO)→[3](BANK-CH)を順に押す

○ プライオリティ受信設定画面(PRIO)が開きます。

2. 数字キー入力で メモリバンク番号(2桁)とチャンネル番号(2桁)を入力

○ 選択したメモリバンク・メモリチャンネルに設定された周波数とタイトルが4、5行めに自動表示されます。

3. [7](INTERVAL)を押してインターバル時間(00～99)を DIAL で秒数を指定

4. [ENT]を押す

□ 行選択モードに戻る場合は、[◀](↶)を押す

他の項目を変更してから、[9](PRIO PARAM SET)を押す

PRIO	
1 PRIO	OFF ✓
2	
3 BANK-CH	00-00 →
4	434.49000
5	RPNY430
6	
7 INTERVAL	05 →
8	
9 PRIO PARAM SET	
[ ]	[0] p1/1
[▲]	[SEL] [▼]

### 10.2. プライオリティ受信の実行

1. [MENU]→[2](MEM)→[7](PRIO)→[1](PRIO)を順に押す

2. DIAL を回して ON を選択する

3. [ENT]を押す

□ 行選択モードに戻る場合は、[◀](↶)を押す

他の項目を変更してから、[9](PRIO PARAM SET)を押す

□ プライオリティ受信動作を解除する場合は、

1. [MENU]→[2](MEM)→[7](PRIO)→[1](PRIO) を順に押す

2. DIAL を回して OFF を選択する

3. [ENT]を押す

## 11. プログラムサーチモード

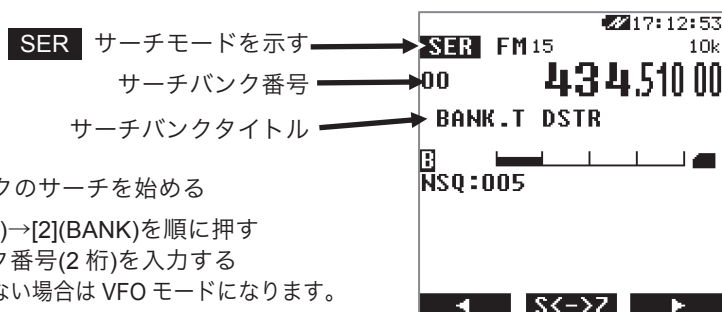
### 11.1. サーチ機能

サーチはメモリされた上下の周波数間を指定のステップで順に受信して信号を探します。受信信号をサーチしたい周波数範囲などサーチデータをあらかじめ書きこんでおくサーチバンクが 40 組(00～39)、サーチ条件を目的別に登録しておくサーチグループが 10 組(サーチグループ番号 0～9)あります。

プログラムサーチを開始した時点で選択されているサーチグループの内容に従ってサーチを行います。

スケルチが開く信号を探しますので、スケルチ調整はノイズが消えるぎりぎりの位置に合わせてください。

本書ではプログラムサーチモードを「サーチモード」と記載しています。



□ 目的のサーチバンクのサーチを始める

1. [MENU]→[4](SRCH)→[2](BANK)を順に押す

2. 目的のサーチバンク番号(2桁)を入力する

※ サーチバンク登録がない場合は VFO モードになります。

□ 使用するサーチバンクを変更する場合

目的のサーチバンク番号(2桁)を数字キーで入力

□ サーチ方向を変更する場合

[◀]または[▶]を押す、あるいは、DIAL をまわす

□ 受信信号で停止中に DIAL をまわす、または、[◀](左)、[▶](右)を押すと次(隣接)の周波数に移りサーチを再開します。

○ 選択したサーチグループにバンクリンクされていないサーチバンクをサーチする場合、同じバンク内のサーチを繰り返します。

○ 選択したサーチグループにバンクリンク登録のあるサーチバンクを選ぶことでバンクリンクした複数のサーチバンクを順にサーチを繰り返します。

○ 受信信号で停止中に復調モードなどを変更すると、変更内容がそのチャンネルに反映されます。(サーチバンク保護 PROTECT OFF の場合)

## 11.2. サーチバンク登録・編集

サーチバンクには上下の周波数と復調モード、ステップ周波数などとテキスト(タイトル)を登録し、また、あとから編集できます。

1. [MENU]→[4](SRCH)→[8](BANK EDIT)→[1](BANK)を順に押す
2. 目的のサーチバンクのバンク番号(2桁)を数字キーで入力  
○現在の設定内容を表示します。(未登録の場合は初期値を表示)
3. 編集したい項目をリスト式メニューの操作方法に従って変更する

p1/2 ページ

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1 BANK             | バンク番号 呼び出しのみ) |
| 2 LOW F.           | 開始周波数         |
| 3 HI F.            | 終了周波数         |
| 4 MODE             | 復調モード         |
| 5 IFBW             | IF 帯域幅        |
| 6 STEP             | ステップ          |
| 7 T:               | サーチバンクタイトル    |
| 8 PROTECT          | サーチバンク保護      |
| 9 SEARCH PARAM SET |               |

SEAR.BANK EDIT 00	
1 BANK	00→
2 LOW F.	434.00000→
3 HI F.	434.99000→
4 MODE	DSTR→
5 IFBW	15k✓
6 STEP	10k→
7 T:	DSTR →
8 PROTECT	OFF✓
9 SEARCH PARAM SET	
. P<< [0] P>> p1/2	
▲ SEL ▼	

p2/2 ページ

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 SQL N/L          | ノイズスケルチ、レベルスケルチ     |
| 2 SQL TYPE         | トーン、DCS、逆トーン        |
| 3 CTCSS            | トーンスケルチ、逆トーンのトーン周波数 |
| 4 DCS CODE         | DCS コード             |
| 5 AGC              | AGC 設定              |
| 6 OFFSET F.        | オフセット受信設定           |
| 7 V.SCR            | 秘話反転                |
| 8 V.SCR F.         | 秘話反転周波数             |
| 9 SEARCH PARAM SET |                     |

SEAR.BANK EDIT 00	
1 SQL N/L	AUTO✓
2 SQL TYPE	OFF✓
3 CTCSS	OFF✓
4 DCS CODE	OFF✓
5 AGC	FAST✓
6 OFFSET F.	+0.0M→
7 V.SCR	OFF✓
8 V.SCR F.	2000✓
9 SEARCH PARAM SET	
. P<< [0] P>> p2/2	
▲ SEL ▼	

p2/2 ページの項目は、VFO EDIT メニューと同じです。

同じ要領で設定してください。

4. すべての編集が済んだら [9](SEARCH PARAM SET)を押す

○ このメニューの入力内容を登録して、受信動作画面に戻ります。

### 注意：

・DIGI CONF、DIGI DISP、アッテネータ、イヤホンアンテナの編集はこのメニューではできません。サーチバンクの保護

[MENU]→[4](SRCH)→[8](BANK EDIT)→[8](PROTECT)を OFF にして、サーチモードで受信中にこれらを変更することで登録内容に反映されます。

・他の項目との関連で、選択できない項目は薄い文字で表示されます。



### 11.3. サーチグループ設定

サーチグループは、サーチ時の動作を指定するサーチ条件(ディレー時間、フリー時間、オートストア機能)の設定、および、複数のサーチバンクを連続してサーチするバンクリンク設定ができ、目的別に登録しておく、必要時にサーチグループを選択すれば同じ条件で受信することができます。

サーチグループは 10 組あり、0～9 のサーチグループ番号で区別します。

1 つのサーチグループには次の項目を登録できます。

- バンクリンクするバンク番号
- ディレー時間
- フリー時間

1. [MENU]→[4](SRCH)→[6](GRP EDIT)→[1](GROUP)を順に押す

○サーチグループ番号入力画面(GRP EDIT GRP)となります。

2. 登録するグループ番号を数字キー(例:[0])で押す

○リスト式メニューに戻ります

3. 以下の要領で必要な項目を設定変更

SEARCH GROUP EDIT															
1 GROUP															0 ✓
00	01	02	03	04	05	06	07	08	09						
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19						
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29						
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39						
6 DELAY										2.0 ✓					
7 FREE										OFF ✓					
9 SEARCH GROUP SET															
.										0		p1/1			
▲										SEL		▼			

#### 2～5 BANK LINK バンクリンク

バンクリンク設定すると、選択したサーチバンクのいずれかでサーチを開始するとき、リンクしたサーチバンクを連続してサーチします。

選択していないサーチバンクでサーチを開始した場合は、サーチ条件のみ使用します。

1. バンクリンクはリスト式メニューの 2 行め～5 行めに割り当てられていますので、各業を指定する場合に[2]～[5]キーを押すことで、その行の先頭が選択位置(点滅)になります。
2. DIAL を回す(または、[◀](左)、[▶](右)キーを押す)ことでバンク番号の選択位置(点滅)を移動して、目的のバンク番号で[.] (ON)キーを押すことでリンク設定します。

00 01 02 03 04 05 06 07 08 09  
10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
20 21 22 23 24 25 26 27 28 29  
30 31 32 33 34 35 36 37 38 39

□ 再度[.] (ON)キーを押すことで解除します。

3. 1 行分のリンク設定ができたら[ENT](SET&↵)を押す。

○ 設定登録して 2～5 行が「行選択モード」になります。

□ 他に設定項目がなければ、入力値を登録するために[9](SEARCH GROUP SET)を押す

○ 設定登録してサーチグループ設定を終わります。

## 6 DELAY ディレイ時間

信号がとぎれてスケルチが閉じてから、サーチを再開するまでの遅延時間です。  
この時間内に再び信号が検出されれば再びスケルチ閉じてからの遅延時間になります。  
**OFF**(遅延なし)、および **0.1～10.0** 秒を 0.1 秒単位から選択します。(初期値 2.0)

## 7 FREE フリー時間

信号がとぎれない場合でもスケルチが開たときからこの時間後にサーチを再開します。  
**OFF**(スケルチが閉じるまで再開しない)、および **1～60** 秒を 1 秒単位から選択します。(初期値:OFF)

### 11.4. 使用するサーチグループ番号の選択

サーチ条件を設定したサーチグループ番号を選択します。

1. [MENU]→[4](SRCH)→[3](GRP)を順に押す

○ サーチグループ入力画面(SEARCH GRP)が開きます。

2. サーチで使用するサーチグループ番号を数字キーで入力

○ このあとにサーチを開始するとき、ここで選択したサーチグループに登録のサーチ条件で受信します。

○ バンクリンク登録していないサーチバンクを選んでサーチすることもできます。この場合は、バンクリンク設定以外の条件(ディレイ時間、フリー時間、オートストア)のみ使用します。

○ 選択したサーチグループにバンクリンク設定してあると、バンクリンクしたいいずれかのサーチバンク番号を選ぶことでバンクリンクした複数のサーチバンクを順にサーチします。



### 11.5. バンク番号を指定してサーチ開始

指定したサーチバンク内に登録された周波数範囲を順にスキャンを開始します。

1. [MENU]→[4](SRCH)→[2](BANK)を順に押す

○ サーチ開始バンク入力画面(SEARCH BANK)が開きます。

2. サーチを開始するバンク番号を数字キーで入力

○ サーチモードになり、指定したサーチバンクに登録の周波数範囲のスキャンを開始します。



## 11.6. サーチパス登録と解除

サーチ中に受信する必要のない周波数にはパス登録すると以後はサーチ中に信号があっても無視します。

サーチパスは1バンクにつき最大 50 個の周波数を書き込めます。サーチバンクの 40 バンクに各 50 個、計 2000 個あります。

各サーチパスはひとつの周波数で設定されます。(周波数範囲の指定はできません。)

サーチ中に信号を受けて停止中の時にサーチパスの ON を登録します。

1. 目的の周波数を受信中(サーチモード中に信号を受けて停止中)に、[MENU]→[4](SRCH)→[4](PASS ON)を順に押す

○ 押した瞬間に受信していた周波数がサーチパスに登録されるので、その周波数をパスして次の検索をはじめます。

※ サーチパスは上記操作でのみ登録できます。周波数等の編集はできません。

※ サーチモードの検索中には設定できません。

MENU-SEARCH		
1 EXEC	2 BANK	3 GRP
4 PASS ON	5	6 GRP EDIT
7	8 BANK EDIT	9
.	0	P1/1
◀ ENT ▶		

□ 登録解除は、編集メニュー(EDIT)で行います。

1. [MENU]→[8](EDIT)→[7](PASS FEQ)→[ENT]を順に押す
2. 1 BANK を DIAL で選択したあと、[ENT](NEXT)を押す
3. 2 F.NO を DIAL で変更していくと、下の FREQ 欄にパス周波数が表示されますので、目的の周波数を確認する
4. そのひとつだけを解除する場合は、4 DEL 1PF/ALL で 1PF を DIAL で選択

□ そのサーチパスに登録されている全てのパス周波数を削除する場合は 4 DEL 1PF/ALL で ALL を選択

5. 解除を実行するには、9 DEL EXEC が行選択モードの状態です[ENT](SET&↵)を押す。

EDIT PASS DEL	
1 BANK	00
2 F.NO	00 =>
4 DEL 1PF/ALL	ALL
F.NO	00 / 00
FREQ	-----
9	DEL EXEC
	CLR ↵
▲ NEXT ▼	

## 11.7. サーチ中のサーチバンク内容の変更

サーチ中に復調モードやステップ周波数などを変更すると、変更内容がそのバンクに反映されます。

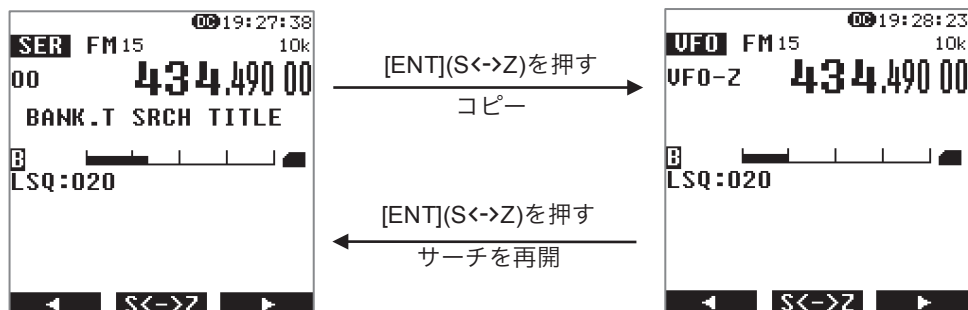
もし一時的な変更としたい場合は、あらかじめサーチバンク編集メニューの PROTECT を ON にします。この場合、一時的な変更内容が有効な期間は

- ・プログラムサーチモード以外の動作モードに移動するまで
- ・他のバンクとのバンクリンクが設定されていない場合は、他のバンクに移動するまで
- ・他のバンクとのバンクリンクが設定されている場合は、バンクリンクされていない他のバンクに移動するまで

のいずれかで、上記期間を超えると一時的な変更内容は消えます。

## 11.8. サーチモードの停止中の VFO へのコピー

サーチモードで、ある周波数で信号を受信して停止中に受信周波数、復調モード、IF 帯域幅などを VFO-Z にコピーして、VFO-Z に切替えて受信することができます。



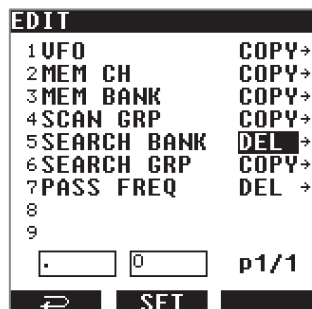
□ [ENT](S<->Z)を押して、サーチを再開することもできます。

## 11.9. サーチバンクの消去

サーチバンクを消去します。

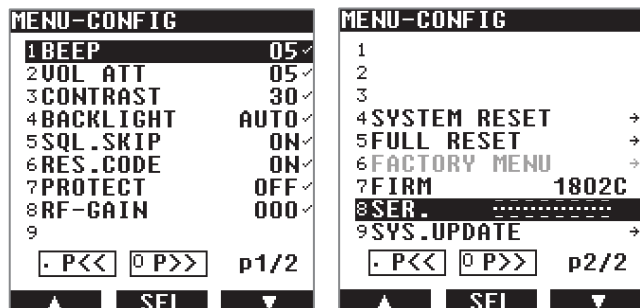
一度消去したサーチバンクは復活できません。

- [MENU]→[8](EDIT)→[5](SEARCH BANK)を順に押す
  - 編集メニュー(EDIT)が表示され、5 SEARCH BANK が項目値選択モードになります
- DIAL をまわして、DEL を選択して、[ENT](SET)を押す
  - メモリチャンネル消去メニュー(EDIT MEMCH DEL)が表示されます
- 1 SRC BK で目的のサーチバンク番号を DIAL で選択し[ENT](NEXT)を押す
- 3 DEL 1BK/ALL で目的のサーチバンク番号のみ消去(1BK)か、全サーチバンクを消去(ALL)かを DIAL で選択し[ENT](NEXT)を押す
  - 9 DEL EXEC が行選択モードになります
- [ENT](SET&↵)を押す
  - 「WRITING MEMORY...」が表示され選択したメモリチャンネルが消去されます。
  - 続けて、同様の操作で別のサーチバンクの消去もできます。
  - 終了する場合は、[CLR]を 2 回押す。受信動作画面に戻ります。



## 12. 受信機設定

次の受信機の設定項目を変更できます。



注意：

- ・ FACTORY MENU は、使用しないでください。
- ・ SYSTEM RESET、FULL RESET については、p.79 「システムリセット」「フルリセット」を参照ください。

1. [MENU]→[7](CONFIG)を順に押す

○ 受信機設定(MENU-CONFIG)メニューが開きます。

### 1 BEEP ビープ音量

キー操作時の操作音、エラー音の音量を設定します。

注意：VOL は、音声出力とビープ音を同時に絞ります。

### 2 VOL ATT 音量アッテネータ

音声出力を電子的に小さくします。コマンド制御用機能

06 以上のとき、ディスプレイに VolATT 表示

### 3 CONTRAST ディスプレイ表示のコントラスト

### 4 BACKLIGHT ディスプレイバックライトの点灯のしかた

OFF 常時消灯(初期設定値)

CONT 常時点灯

AUTO 自動消灯(操作で点灯、直近の操作後数秒で消灯)

### 5 SQL.SKIP スケルチ スキップ

ON では、録音において、スケルチが開いている時に録音を行い、スケルチが閉じている時は録音を一時停止します。

### 6 RES.CODE 応答メッセージ行頭にリザルトコード付加

ON では、リモートコマンドの応答メッセージの行頭にリザルトコードを付加する

### 7 PROTECT ラストワンスメモリ機能無効

ON では、無効

### 8 RF-GAIN AGC 設定がマニュアルの場合の RF ゲイン 000(最小)(初期設定値)

AGC 設定を「RF-G」にした場合にここで設定した RF ゲイン値を使用します。

SSB や CW の受信の場合 RF ゲインにより感度を落として受信したほうが、雑音が少なくなり聞きやすいことがあります。受信状況により使用してください。

p2/2 ページ

### 7 FIRM ファームウェア バージョン(表示のみ)

### 8 SER. シリアルナンバー(表示のみ)

### 9 SYS.UPDATE microSD カードのファイルでファームウェア更新

p.77 「ファームウェア更新」を参照ください

## 13. データエディタ

メモリチャンネル、メモリバンク、スキャングループ、サーチバンク、サーチグループの  
 各々の内容のコピー、移動、消去ができます。

VFO コピー、サーチパス解除については、p.39「VFO コピー」、p.65「サーチパス登録と  
 解除」の項を参照ください。

1. [MENU]→[8](EDIT)を順に押す

○ EDIT メニューが表示されます。

2. 操作したい項目を[2]～[6]を押して選択する

- [2] メモリチャンネル (1つのチャンネルを操作)
- [3] メモリバンク (バンク内のすべてのチャンネルを操作)
- [4] スキャングループ (1つのグループを操作)
- [5] サーチバンク (1つのバンクを操作)
- [6] サーチグループ (1つのグループを操作)

○ 操作したい項目の機能の項目値選択モードになります。

3. 操作したい機能を DIAL をまわして選択し[ENT](SET)を押す

COPY コピーする

MOVE 移動する(移動元は未登録\*になる)

DEL 消去する\*

\*: スキャングループ、サーチグループは初期値になる

○ 各操作画面が表示されます。

4. 各項目のバンク番号、メモリチャンネル番号、対象が1バンク、  
 または、全バンクの別を DIAL をまわして選択する

5. [9]( ○○ EXEC)を押す (○○は、COPY、MOVE、DEL の選択した機能による)

○ 「WRITING MEMORY...」が表示され選択した機能が実行されます。

□ 続けて、同様の操作で別の編集操作もできます。

□ 終了する場合は、[CLR]を 2 回押す。受信動作画面に戻ります。

各項目は次のとおりです。

・メモリチャンネル(MEMCH)に関するもの

SRC BK: 操作対象のチャンネルのバンク番号

SRC CH: 操作対象のチャンネル番号

DIST BK: コピー先、または、移動先のチャンネルのバンク番号

DIST CH: コピー先、または、移動先のチャンネル番号

DEL BK: 消去対象のチャンネルのバンク番号

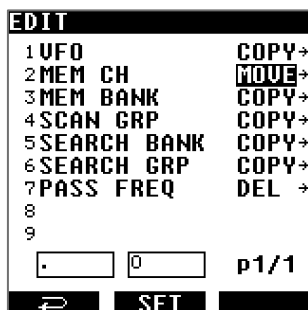
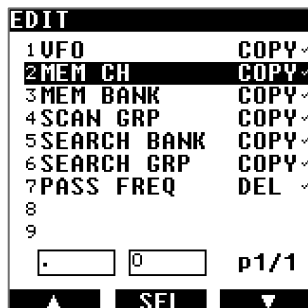
DEL CH: 消去対象のチャンネル番号

・メモリバンク(MEM.B)に関するもの(バンク内のすべてのチャンネルが対象)

SRC BK: 操作対象のチャンネルのバンク番号

DIST BK: コピー先、または、移動先のチャンネルのバンク番号

DEL 1BK/ALL: 消去対象のチャンネルのバンクは1バンク、または、全バンク



- ・ スキャングループ(SCAN.G)に関するもの  
SRC GRP: 操作対象のスキャングループ番号  
DIST GRP: コピー先、または、移動先のスキャングループ番号
- ・ サーチバンク(SRCH.B)に関するもの  
SRC BK: 操作対象のサーチバンク番号  
DIST BK: コピー先、または、移動先のサーチバンク番号  
DEL 1BK/ALL: 消去対象のサーチバンクは 1 バンク、または、全バンク
- ・ サーチグループ(SRCH.G)に関するもの  
SRC GRP: 操作対象のサーチグループ番号  
DIST GRP: コピー先、または、移動先のサーチグループ番号

参考：EDIT の各操作画面

メモリチャンネルのコピー

```

EDIT MEMCH COPY
1SRC BK 00
2SRC CH 00 =>00
3DIST BK
4DIST CH 00
   SRC  ----.----
      DIST  ----.----
9      COPY EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

メモリチャンネルの移動

```

EDIT MEMCH MOVE
1SRC BK 00
2SRC CH 00 =>00
3DIST BK
4DIST CH 00
   SRC  ----.----
      DIST  ----.----
9      MOVE EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

メモリチャンネルの消去

```

EDIT MEMCH DEL
1DEL BK 00
2DEL CH 00 =>
      DEL  ----.----
9      DEL EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

メモリバンクのコピー

```

EDIT MEM B. COPY
1SRC BK 00 =>00
2DIST BK
   SRC
      DIST
9      COPY EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

メモリバンクの移動

```

EDIT MEM B. MOVE
1SRC BK 00 =>00
2DIST BK
   SRC
      DIST
9      MOVE EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

メモリバンクの消去

```

EDIT MEM B. DEL
1SRC BK 00 =>
3DEL 1BK/ALL 1BK
   SRC
9      DEL EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

スキャングループのコピー

```

EDIT SCAN G. COPY
1SRC GRP 00 => 00
2DIST GRP
9      COPY EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```

スキャングループの移動

```

EDIT SCAN G. MOVE
1SRC GRP 00 => 00
2DIST GRP
9      MOVE EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```


スキャングループの消去

```


EDIT SCAN G. DEL ©
1SRC GRP 00 =>
9      DEL EXEC
      CLR
  ▲  NEXT  ▼

```


サーチバンクのコピー

EDIT SRCH B. COPY	
1SRC BK	00 => 00
2DIST BK	
SRC L:	-----
H:	-----
T:	
DST L:	-----
H:	-----
T:	
9	COPY EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	


サーチバンクの移動

EDIT SRCH B. MOVE	
1SRC BK	00 => 00
2DIST BK	
SRC L:	-----
H:	-----
T:	
DST L:	-----
H:	-----
T:	
9	MOVE EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	

サーチバンクの消去

EDIT SRCH B. DEL	
1SRC BK	00 =>
3DEL 1BK/ALL	1BK
SRC L:	-----
H:	-----
T:	
9	DEL EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	

サーチグループのコピー

EDIT SRCH G. COPY	
1SRC GRP	00 => 00
2DIST GRP	
9	COPY EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	

サーチグループの移動

EDIT SRCH G. MOVE	
1SRC GRP	00 => 00
2DIST GRP	
9	MOVE EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	

サーチグループの消去

EDIT SRCH G. DEL	
1SRC GRP	00 =>
9	DEL EXEC
CLR 	
▲ NEXT ▼	



## 14. その他の設定・操作

### 14.1. キーロック

キーロックは DIAL や操作キーを間違って触れ、受信動作が変化してしまうことを防ぐための機能です。

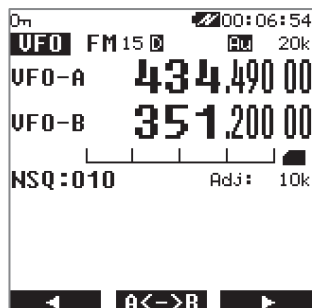
1. [On] (ロック) キーを長押し

○ ディスプレイの左上にキーロックアイコン  
を表示します。

このとき、次を除くキー操作、DIAL 操作は無効です。

◎ ロック中に操作が有効なもの

- ・ 電源スイッチによる電源オフ・オン
- ・ SQL/MONI スイッチを長押しによる機能
- ・ VOL による音量調整
- ・ [On] (ロック) キーを長押しによるキーロック解除
- ・ [ENT] を押すによるリモートモードの解除



□ キーロック中に、再び [On] (ロック) キーを長押しするとキーロックは解除されます。

### 14.2. イヤホンアンテナ

受信周波数が FM 放送バンド(64~107.99999MHz)内で、復調モードが FM かつ IF 帯域幅 100kHz でのみ、イヤホンアンテナを有効にすることができます。それ以外の周波数と受信モード・IF 帯域幅では無効。

1. [MENU]→[9](OPT)→[2](EAR ANT.)を順に押す

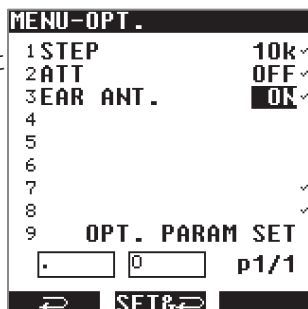
○ イヤホンアンテナ(EAR ANT.)項目が DIAL で選択可能になります。

2. DIAL を回して ON(有効)/OFF(無効)を切り替える

3. [ENT](SET&↵)を押す

○ 「行選択モード」に戻ります。

4. [9](OPT. PARAM SET)を押す

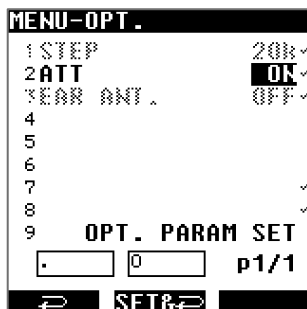


### 14.3. アッテネータ

受信信号が強すぎて受信音が歪む場合や、近くに強い信号があって目的の信号が聞きにくい場合に、意図的に受信感度を下げる機能です。

減衰量は約 10dB です。S メータ表示値の補正はありません。

1. [MENU]→[9](OPT)→[2](ATT)を順に押す  
○アッテネータ(ATT)項目を DIAL で選択可能になります。
- 2.DIAL を回して ON(有効)/OFF(無効)を切り替える
3. [ENT](SET&←)を押す  
○「行選択モード」に戻ります。
4. [9](OPT. PARAM SET)を押す



これらの設定は、各 VFO やサーチバンク、メモリチャンネルごとに保持します。

## 15. SD カード操作

本機は、microSD カードに受信音声を録音するほか、その録音ファイルの再生、メモリチャンネル等のデータのバックアップファイルの保存とリストア、本機のファームウェアの更新等に使用できます。

**注意：**ファームウェアの更新は SYS UPDATE メニューでのみ動作します。

対応する microSD カードについては、p.26「microSD カードについて」の項をご覧ください。ここでは、microSD カード操作画面(一覧表示、再生)に関する機能について説明します。

対応する microSD カードを microSD カードスロットに挿入し、ディスプレイに SD カードアイコンが表示されている状態で操作してください。

### 注意：

- ・ microSD カードが挿入されていない状態や、認識できない microSD カードは、これらの操作ができません。
- ・ 動作の途中で、電源を切らないように、microSD カードを取り外さないようにご注意ください。microSD カード内のファイルや microSD カード自体が破損するおそれがあり、状況によっては本機が動作しなくなる場合があります。

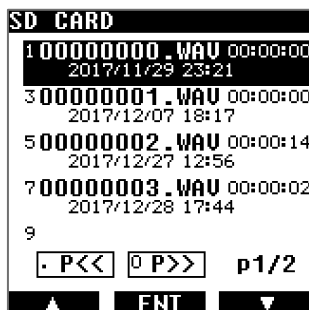
### 15.1. ファイル一覧

1. [ ● ](録音)長押し→[1](LIST)を順に押す

○ファイル選択リスト表示します。

○表示中も受信動作や音声出力は継続します。

・ SD CARD ファイル選択メニューでは 1、3、5、7 の番号のみが数字キーで選択できる機能があります。



#### ◎ 複数ページの場合

・ 9 番の項目行の右下に表示の「p1/2」は、メニューのページ番号とページ数を示します。この場合は、2 ページのうちの 1 ページめです。

・ 2 ページ以上のメニューは、9 番の項目行の下に [ P<< ] [ 0 P>> ] 表示しています。これは、[.]を押して前ページ、または、[0]を押して次ページを表示することを示します。

○microSD カードのルートディレクトリのすべてのファイルを表示します。

### 注意：

- ・ASCII(半角英数)文字以外の日本語文字などや 9 字以上のファイル名は表示できない場合があります。
- ・サブディレクトリとその内容は表示しません。
- ・ファイル数が多い場合に microSD カードの認識やファイル一覧表示に長時間かかる場合がありますので、SD カード内に多数のファイルを保存しないことを推奨します。

本機で使用するファイルの種類は以下のとおりです。

#### 1. ファームウェアファイル

ファイル名はファームウェアのバージョンに基づきます。(拡張子:D10)

p.77「ファームウェア更新」の項をご参照ください。

#### 2. 録音ファイル

ファイル名は数字 12 文字。(拡張子:WAV)

p.49「録音」の項、および、p.74「再生」の項をご参照ください。

#### 3. サーチバンクデータ、スキャングループデータ、すべての受信機設定 など

本機の各種メモリデータ等をバックアップ機能で書き出したものです。

それぞれのファイル名は常に同じです。

サーチバンク	SRCHBK.CSV	メモリバンク	MEMBK.CSV
サーチグループ	SRCHGRP.CSV	スキャングループ	SCANGRP.CSV
メモリチャネル	MEMCH.CSV	受信機設定のすべて	SYSTEM.CSV

詳しくは p.75「バックアップコピー」の項をご参照ください。

## 15.2. 再生

本機による録音ファイルには、受信音声(モノラル)が記録されています。

そのファイルは、本機で再生できます。

#### 1. [●](録音)長押し→[1](LIST)を順に押す

○ microSD カード内のファイル一覧表示をします。

○ 2 ページ以上のメニューは、9 番の項目行の下に[. P<<]  
[0 P>>] 表示しています。

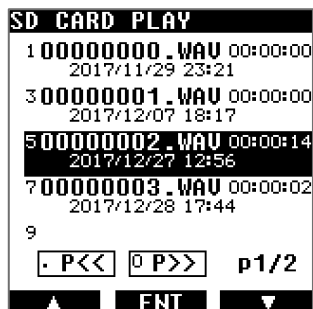
これは、[.]を押して前ページ、または、[0]を押して次ページを表示することを示します。

#### 2.再生したい録音ファイル(拡張子:WAV)を数字キーで選択

○録音ファイルの再生を開始します。ディスプレイ最上行中央「PLAY」(点滅)表示は再生中を示します。

○音量は VOL を回して調整してください。

○ファイルの終わり、または、[CLR]キー操作で再生は終了します。

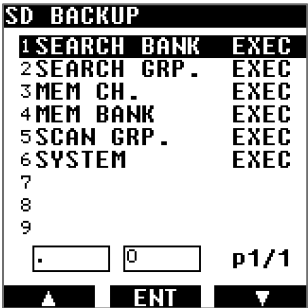


### 15.3. バックアップコピー

AR-DV10 の各種メモリデータ等は microSD カード内にバックアップコピーできます。  
新しい機体に同じ内容を登録する場合や、データ内容を PC 上で編集して登録することもできます。

1. microSD カードが認識されている状態で、  
[ ● ]長押し→[2](BACK UP)を順に押す

○バックアップコピーメニューを表示します。



2. 目的の項目の番号の数字キーを押す

メニュー	内容	ファイル名
1 SEARCH BANK	全サーチバンクの内容	SRCHBK.CSV
2 SEARCH GRP.	全サーチグループの内容	SRCHGRP.CSV
3 MEM CH.	全メモリチャンネルの内容	MEMCH.CSV
4 MEM BANK	全メモリバンク設定の内容	MEMBK.CSV
5 SCAN GRP.	全スキャングループの内容	SCANGRP.CSV
6 SYSTEM	受信機設定のすべての内容	SYSTEM.CSV

それぞれのファイル名は常に同じです。同名のファイルがあっても上書きされます。

3. 目的の項目行の先頭の番号の数字キーを押す

○「WRITING BACK UP...」表示中にバックアップコピーを行なっています。  
バックアップ完了後、SD カード操作画面に戻ります。

## 15.4. リストア

AR-DV10 に microSD カード内のバックアップファイルの内容を読み込んで各種メモリデータ等を登録(リストア)することができます。

バックアップコピーの場合は、すべてのバンクや、すべてのメモリチャンネルをそれぞれ一つのファイルに含んでいます。リストアの場合は、内容を PC などで編集する事で、一部のバンクやチャンネルのみのファイルを作成してリストアすることもできます。

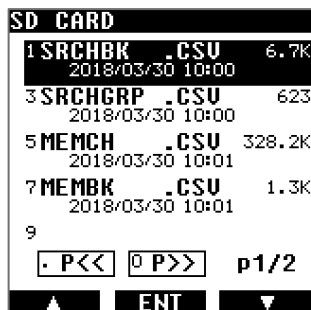
ファイル名は、バックアップファイルが常に同じファイル名であることには関わらず、**8 文字以内の任意の ASCII 文字が使用できます。(拡張子は.CSV に限ります。)**

リストアの際には、ファイル名に関わらずファイルの内容に従ってリストアします。

1. microSD カードが認識されている状態で、[ ● ]長押し→[1](LIST)を順に押す

○SD CARD 画面で microSD カード内のファイル一覧表示をします。

□ 複数ページある場合は、[.] (P<<)、[0] (P>>)キーでページを切り替えることができます。



2. ファイル一覧表示で、目的のファイルのファイル名左側の番号の数字キーを押す

○「WRITING MEMORY...」表示中に選択したファイルの内容に応じてリストアします。

## 15.5. ファームウェア更新

### ■ ファームウェア更新について

・ AR-DV10 のファームウェアの更新は、お使いになる上で不都合のない限り必須ではありません。

・ ファームウェア更新に際して、原則として、サーチ・スキャン・メモリ登録内容を継承しますが、念のために SD カードにバックアップコピー ([ ● ] 長押し→[2](BACK UP)→[6](SYSTEM EXEC) を押す) をすることを推奨します。

登録内容の継承を要しない場合(または特定用途向け製品の一部など)はこの限りではありません。

### ■ ご用意いただきたいもの

・ 目的のファームウェア ファイルのみを保存した SD カード\*

・ サーチ・スキャン・メモリ登録内容を保存する場合は、十分な空き容量 (200MB 以上) のある SD カード\* (保存のつど、同じファイル名でバックアップ保存します。 同じファイル名の既存ファイルは警告無く上書きされますのでご注意ください。 既存ファイルのない SD カードを推奨します。)

\* AR-DV10 が対応する SD カードに限る

### ■ ファームウェア更新についてのご注意

・ ファームウェア ファイルを保存した SD カードを使用して、AR-DV10 のメニュー操作 [MENU]→[7](CONF)→[.] (P<<)→[9](SYS UPDATE)を順に押す

によってファームウェアを更新します。メニュー操作のできない状態では実施できません。

・ ファームウェア更新動作中は AR-DV10 の電源を切らないように、SD カードを取り外さないようにご注意ください。 状況によっては動作しなくなる場合があります。

・ ファームウェア ファイルはお客様の責任においてお使いください。 万一お客様に損害が生じたとしても弊社は一切の責任を負いません。

・ ファームウェアのプログラミングに関するサポートは行ないませんのでご了承ください。

・ ファームウェア ファイルを改変しないでください。 それらを使用することで製品が破損する場合があります、保証の対象外となります。

・ 必要に応じて、あらかじめ保存したサーチ・スキャン・メモリ登録内容をリストア ([ ● ] を長押し→[1](LIST)を押す→バックアップファイル SYSTEM.CSV を選択)してください。

・ ファームウェア ファイルの権利は弊社に帰属します。

・ ファームウェアのアップデートは継続的に提供することをお約束するものではありません。また、アップデートには SD カードスロット搭載のパソコンとインターネット環境が必要になります。

microSD カードに格納されたファームウェアファイルを受信機に読み込ませて更新します。

**注意：**ファームウェアファイル(例：1801C.D10)は、microSD カードを開いたすぐ中に格納してください。フォルダに入れると更新できません。

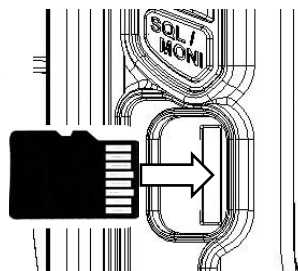
1. 電源オンの場合は、電源スイッチを「SHUTDOWN」表示されるまで長押しして本機の電源を切る

2. 本機左側面の microSD 表示のラバーキャップを開ける

3. 目的のファームウェアファイル（例：1801C.D10）を格納した microSD カードを本機の microSD カードスロットに取り付ける

（microSD カードの端子のある面がディスプレイ側）

**注意：**カードスロットの左側の隙間に押し込まないようにしてください。



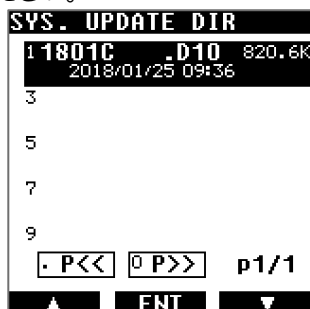
4. 電源スイッチを押す

○ 起動が完了して、受信動作状態になるまでお待ちください。

**注意：**バッテリー残量が充分にあることを確認してください。ファームウェア更新中に電源が切れると更新に失敗し、回復できない故障の原因になる場合があります。

5. SD カードアイコンが表示されている(microSD カードが認識されている)ことを確認してから、  
[MENU]→[7](CONF)→[0](P>>)→[9](SYS UPDATE)を順に押す

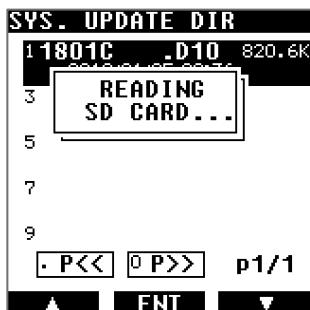
○ SYS . UPDATE DIR 画面が開き、ファームウェアファイルのみを一覧表示します。



6. SYS . UPDATE DIR 画面で、目的のファームウェアファイルが表示されていることを確認する

○ 4 つ以上のファイルがあり、目的のファイルが見当たらない場合は、[.] (P<<)、[0] (P>>) キーを使って他のページも確認してください。

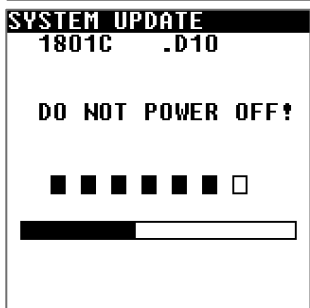
**注意：**ファームウェア更新進行中は、本機の電源を切らないように、microSD カードを取り外さないようにご注意ください。状況によっては動作しなくなる場合があります。



7. 目的のファームウェアファイルのファイル名を確認したら、その行の先頭の数字のキー(例: [1])を押す

○ 「READING SD CARD...」表示に続いて、「SYSTEM UPDATE」表示(進行グラフ表示)されます。

○ 更新完了後に、自動的に再起動します。スタート表示に更新後のファームウェアバージョンが表示されます。







## 16. 特殊操作

### 16.1. リモートモードの解除

シリアルコマンドによる制御をおこなった場合にリモートモードになります。


リモートモード（ディスプレイ左上に「」表示）では、電源スイッチ以外の操作ができません。

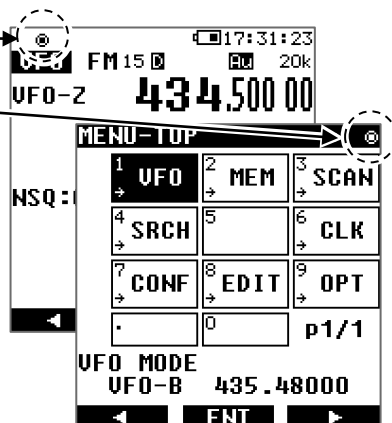
(※ メニュー表示ではディスプレイ右上に「」表示)

この状態で手動操作をしたい場合などは、リモートモードを解除する必要があります。

リモートモードをキー操作で解除する

#### 1. [ENT]を押す

- リモートモードが解除される。「」表示が消える。）



### 16.2. システムリセット

メモリチャンネル、スキャン、サーチ登録を除く受信機設定内容を初期化します。

**注意：** 消去された設定内容を元に戻すことはできません。

#### 1. [MENU]→[7](CONF)→[0](P>>)→[4](SYSTEM RESET)を順に押す

- SYSTEM RESET OK? 表示されます。

#### 2. [ENT]を押す

- システムリセット処理のあと、受信動作画面になります。

### 16.3. フルリセット

すべての設定内容を消去して工場出荷状態に初期化します。

販売時にメモリデータ等をプリセット登録されていた場合はそれらも消去します。

**注意：** 消去された設定内容を元に戻すことはできません。

#### 1. [MENU]→[7](CONF)→[0](P>>)→[5](FULL RESET)→を順に押す

- FULL RESET OK? 表示されます。

#### 2. [ENT]を押す

- フルリセット処理のあと、受信動作画面になります。

## こんなときには

本装置の故障が考えられる場合は、お問い合わせいただく前に次の要領で動作をご確認ください。

確認後も装置が正常に動作しない場合は、電源を切って運用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。

症状	原因の一例	対処方法
電源が入らない (スタート表示などディスプレイ表示しない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バッテリーパックやアルカリ電池トレイの電池の消耗や接触不良</li> <li>・AC アダプタやシガーライターDC/DC アダプタの接続がゆるんでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近にバッテリーパックを充電していない場合は充電してください。</li> <li>・アルカリ電池トレイで新しいアルカリ乾電池をお使いください。(バッテリーパックの消耗が疑われる場合もお試ください)</li> <li>・バッテリーパックやアルカリ電池トレイの端子やアルカリ乾電池の端子が汚れていないか点検してください。</li> <li>・AC アダプタやシガーライターDC/DC アダプタのプラグの接続状態を点検してください。</li> </ul>
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケルチのレベル値が高い</li> <li>・CTCSS や DCS などの各種スケルチ機能が設定されている</li> <li>・デジタル復調モードの設定になっている</li> <li>・VOL ATT 項目値が大きく設定されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスプレイに次の表示があれば、該当の項目値を適切に設定してください。 VolATT、CTC、DCS、RTN</li> <li>・デジタル復調モード(デジタルオートモードを除く)では、スケルチのレベル値を小さくしたり、SQL/MONI スイッチを長押ししてもスケルチが開かず音が出ません。</li> </ul>
音声復調できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受信周波数が一致していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号の中心周波数の約 1kHz 以内に受信機の受信周波数を微調整してお試ください。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号が弱い、あるいは、マルチパスで受信している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号の強い、マルチパスの少ない受信場所や指向性アンテナの使用をお試ください。</li> </ul>
音声復調できない (電子音が聞こえる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秘話コードが不一致、または、本装置の対象外の通信方式である可能性があります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本機が対応している通信方式の場合は、正しい秘話コードを設定してお試ください。</li> </ul>

付随情報(D-STAR コールサイン情報など)が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送信局の送信開始時を正常に受信できなかった(頭切れの)可能性があります。(スキャンやサーチ受信時は送信の途中から受信する場合は少なくなります)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付随情報は、送信開始時に送出されるものがあります。</li> <li>・安定に受信できる受信場所や指向性アンテナの使用をお試しください。</li> <li>・スキャンやサーチ受信時は、受信信号で停止した以後の新たな送信開始時に付随情報を表示すれば動作しています。</li> </ul>
D-STAR 運用周波数以外でも(from、to、rep1、rep2 の項目)空欄の付随情報が表示されることがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノイズを誤検出した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本装置はノイズをデジタル音声信号として誤検出する場合があります。故障ではありません。</li> </ul>
電源を入れた時に、正常に起動しない (受信動作画面にならない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受信機のシステム動作に異常がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部電源を接続せず、バッテリーパックも本体から取り外し、1分以上経過後にバッテリーパックを取り付けて電源が入るかお試しください。</li> </ul>
動作中にディスプレイが変化せず、キー操作に反応しなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受信機のシステム動作に異常がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源を入れたあと、しばらく動作する場合は、システムリセット、または、フルリセットをお試しください。</li> </ul>

## 補足事項

---

(本バージョンではありません)

## AR-DV10 の仕様

周波数範囲	100kHz～1300MHz		
動作モード	VFO モード、プログラムサーチモード、 メモリチャンネル読み出しモード、スキャンモード		
受信モード アナログ	WFM、NFM、AM、USB、LSB、CW		
デジタル*	D-STAR、C4FM(Yaesu)、dPMR、DMR、P-25、EJ47U(Alinco)、NXDN、 D-CR (以上のデジタル方式は自動検出可) TETRA (* 一部の音声モードに限る)		
受信構成	100kHz～1300MHz シングルスーパーヘテロダイナ IF 47.25MHz ダイレクト IF サンプリングによる SDR WFM (64MHz～108MHz) ダイレクトコンバージョン方式 SDR AM (520kHz～1710kHz) ダイレクトコンバージョン方式 SDR		
IF 帯域幅	100kHz、30kHz、15kHz、8kHz、6kHz、5.5kHz、3.8kHz、2.6kHz、1.8kHz、 500Hz、200Hz (受信周波数バンド、アナログ復調モードによる) デジタル復調時は自動設定		
受信支援機能	AGC、ステップアジャスト、オフセット受信、プライオリティ受信、 アナログ秘話反転		
アッテネータ	約 10dB ON/OFF		
スケルチ	ノイズスケルチ、レベルスケルチ、逆トーン、デジタル音声検出		
周波数安定度	±5 ppm (-10℃～+50℃)		
受信感度 アナログ (代表値)	SSB (10dB S/N)	0.3μV	
	AM (10dB S/N)	1.6μV	
	FM (12dB SINAD)	0.3μV	
	WFM (12dB SINAD)	2.6μV	
デジタル**	D-STAR、DMR	0.5μV	(** デコード可能な最小値)
VFO 数	3 (A / B / Z)		
メモリチャンネル数	2000		
メモリバンク数	40		
サーチバンク数	40		
プライオリティチャンネル数	1		
周波数パス	1 つのバンクまたは VFO あたり 50 波		
音声出力(10%THD @10.5V)	内部スピーカー250mW 以上(16Ω)、イヤホン端子 200mW 以上(8Ω)		
アンテナ	BNC 50Ω		
アンテナ最大入力	0dBm		
電源	7.4V 2000mAh リチウムイオン電池(バッテリーパック BP-10) 外部電源入力 10.5V(最大)～6.5V(最小)		
消費電流	240mA(typ)、500mA(max) (バッテリーパック充電電流を除く)		
外形寸法	W 65 × H 137 × D 41 mm (バッテリーパック BP-10 を含む、突起部を含まず)		
重量	約 420 g (付属のアンテナ、ベルトクリップ、バッテリーパックを含む)		
動作保証温度範囲	-10℃～+50℃		
付属品	AC アダプタ、リチウムイオンバッテリーパック、急速充電台、ベルトクリップ (本体に取付済)、アンテナ、シガーライターDC/DC アダプタ、アルカリ電池ト レー、microSD カード、取扱説明書		

仕様は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



記号 [ ● ]	14 50 73 74 75 76 77	CTC	19 80
[ ◀ ]	14 19 31 32 33 34 36 38 40 43	CTCSS	19 44 45 53 62 80
..	44 45 46 47 52 54 55 56 60 61 63	CW	18 30 40 41 44 47 67 83
[ ▶ ]	14 19 31 32 34 36	D DATA	15
..	38 40 43 55 56 61 63	D-CR	18 40 43 83
[ ▲ ]	19 34	DCS	19 30 44 45 46 53 62 80
[ ▼ ]	19	DCS CODE	46 53 62
[ ↶ ]	19 33 44 45 46 47 52 54 60	DELAY	56 64
[ ☐ ] (ロック)	14 17 71	DIAL	14 15 28 29 30 33 34 36 37 38
A [A<->B]	19 35	..	39 40 42 43 44 45 46 47 48 51 52
AC アダプタ	1 8 10 12 15	..	54 55 56 59 60 61 63 65 66 68 71 72
..	20 21 22 23 80 83	DIGI CONF	43 53 62
Adj	19	DIGI DISP	42 53 62
AGC	19 29 47 53 62 67 83	DMR	18 83
AGCF	19	DMR SLOT	43
AGCM	19	DMR COLOR	43
AGCS	19	DMR COL.C	43
ALIN	19	dPMR	18 83
AM	1 18 25 30 40 44 47 83	DSTR	18
ANT	71	D-STAR	18 81 83
AR-DV10 製品情報ウェブページ	11 12	DUP	19
ATT	19 72	E EAR	15 19 71
AUT1	30 40 41	EDIT	39 44 45 46 47 48 51 52 53
AUTO	44 67	..	54 56 58 59 62 63 65 66 68 69
B [B](ビジー)	19	[ENT]	10 40 19 28 29 31 32 35 36
BACKLIGHT	28 67	..	38 39 40 43 48 51 52 54 56
BANK	52 53 54 55 56 57 60	..	59 60 63 65 66 68 71 72 79 81
..	61 62 63 64 65 66 75	EXT DC	15 22 23 24
BANK CH	52 53 54 60	EXEC	39 51 59 65 66
BANK EDIT	54 62	F FIRM	67
BEEP	67	FM	1 18 30 40 41 44 45 71 83
BS	19 31	FREE	56 64
C [C◀]	19 43	FULL RESET	79
[C▶]	19 43	G GRP	56 57 63 64 68 69 75
CHARGING	22	H HI F.	62
CH EDIT	51 52 53 54 58	I IFBW	41 53 62
CLK	31	IF 帯域幅	18 29 40 41 44 45 46
[CLR]	14 34 36 39 59 66 74	..	51 52 53 58 62 66 71 83
COPY	19 31 39 68	INTERVAL	60
CONF	28 29 43 47 50 67 77 78	IPX5	1 9
CONTRAST	67	L LOCK	16 21
		LOW F.	62

LSB .....	18 30 40 44 47 83	[SET&⇄] .....	19 39 40 48 52 54
LSQ .....	30 44	.. 56 59 63 65 66 71 72	
M M.BANK PARAM SET .....	54	SHUTDOWN .....	28 78
MEM .....	18 51 52 53 54 58 59 60 75	SQL/MONI .....	15 30 44 71 80
MEM CH PARAM SET .....	52 53 54	SQL N/L .....	44 53 62
[MENU] .....	13 14 28 29 31 35 37 38 39	SQL TYPE .....	44 45 46 53 62
... 44 45 46 47 48 50 51 52 53		SQL.SKIP .....	50 67
... 54 55 56 57 59 60 61 62 63		SRCH(DCS) .....	46
... 64 65 66 67 68 71 72 77 78 79		SRCH(サーチ) ...	61 62 63 64 65 66 69
microSD .....	1 12 15 17 19 26 27	SRCH(トーン) .....	45
... 49 67 73 74 75 76 78 83		STEP .....	37 62
[MODE] .....	13 14 40 41 42 43 53 62	STEP ADJ .....	38
MONI .....	15 30 44 71 80	SYS.UPDATE .....	67 73 74 77 78
N [NEXT] .....	19 39 59 65 66	SYSTEM RESET .....	79
NOISE .....	44	T T: .....	52 53 54 62
NSQ .....	19 30 44	T-DM .....	18 40 41
NXDN .....	18 40 43 83	TETRA .....	1 18 40 83
O OFFSET F. ....	48 53 62	U USB .....	18 30 40 41 44 47 83
OPT .....	71 72	USB 端子 .....	15
OPT. PARAM SET .....	71 72	UNLOCK .....	16 21
P P-25 .....	18 43 83	V V.SCR .....	46 47 53 62
[P<<] .....	32 33 37 38 40 41 73 74 76 78	VFO .... 11 35 37 38 39 44 45 46 47 48	
[P>>] .....	32 33 37 38 40	VFO EDIT .....	44 45 46 47 48 53 62
.. 41 73 74 76 77 78		VFO PARAM SET .....	44 45 46 47 48
PASS .....	53 57 65	VFO-A .....	18 19 35
PRIO .....	60	VFO-B .....	18 19 35
PRIO PARAM SET .....	60	VFO-Z .....	19 35 58 66
PROTECT .....	28 51 52 53 54	VI .....	19 46 47
.. 55 58 61 62 65 67		VOL .....	14 21 28 29 67 71 74
PUSH .....	16 21	VOL ATT .....	19 29 67 80
R RES.CODE .....	67	Y YAES .....	18
REV.T .....	44 45	あ アッテネータ .....	19 53 62 67 72 83
RF-G .....	19 47 67	アルカリ乾電池 .....	2 23 80
RTN .....	19 80	安全上のご注意 .....	7
S [S<->Z] .....	19 35 58 66	アンテナリングパーツ .....	12 14 25
SCN .....	18 55	アンテナ端子 .....	8 14 25
SCAN .....	55 56 57 59	アンテナを取り付ける .....	25
SCAN GRP .....	68 75	い イヤホンアンテナ .....	19 53 62 71
SEARCH .....	62 63 64 66 75	お オプション .....	29 52
SEARCH GRP .....	62 63 64 75	オフセット周波数 .....	19 48
SEARCH PARAM SET .....	62	音声出力 .....	23 29 30 67 73 83
[SEL] .....	19	音量 .....	9 14 17 21 23 29 67 71 74
SER. ....	67	か 各部の名称と機能 .....	14
[SET] .....	19 39 59 68	き キーロック .....	14 17 71



逆トーン .....	19 30 44 45 53 83	と トーン .....	29 30 44 45 53 62
逆トーンのトーン周波数 .....	62	トーンスケルチ .....	45 53 62
急速充電台 .....	1 12 17 20 22 23 83	の ノイズスケルチ .....	30 44 53 62 83
こ ご使用のまえに .....	12	は バッテリーパック ....	1 8 9 11 12 16 20
さ サーチ →SRCH(サーチ)		..	21 22 23 24 28 80 83
サーチグループ .....	29 61 63 64 68	バッテリーラッチ .....	16 21
...	69 70 74 75	ひ 秘話反転 ..	19 29 30 44 46 47 53 62 83
サーチパス .....	65 68	ふ ファームウェア .....	1 12 15 26 28
サーチバンク .....	15 18 29 34 44 61	....	67 73 74 77 78
...	62 63 64 65 66 68 69 70 75	ファイル一覧 .....	73 74 76
サーチバンクの消去 .....	66 70	フォーマット .....	26 27 49
サーチモード .....	1 18 29 61		
..	62 64 65 66 83	復調モード .	1 18 29 30 35 40 41 44 47
し システムリセット .....	79 81	..	51 52 53 55 58 61 62 64 65 66 71 83
周波数のあわせかた .....	36	プライオリティ受信 .....	1 29 60 83
受信オプション .....	29 52	フルリセット .....	79 81
受信機設定 .....	28 29 67 74 75	プログラムサーチモード	
車載用外部電源 .....	24	→サーチモード	
す スキャン →SCAN		へ ベルトクリップ .....	1 9 12 16 21 83
スキヤングループ .....	29 51 55 56 57	め メモリチャンネルの消去 .....	59 69
...	68 69 74 75	メモリチャンネルパス .....	53 57
スキャンモード .....	1 18 29 51	メモリチャンネル登録 .....	52 55
..	55 57 58 83 59	メモリチャンネル読み出しモード .....	
スケルチ ...	15 19 27 29 30 44 45 46 49	..	18 29 51 53 57 59 60 83
..	50 51 53 55 56 61 62 64 67 80 83	メモリバンク ....	18 29 34 51 52 53 54
ステップ周波数 .....	18 19 29 35 36	...	55 56 57 58 60 64 68 69 74 75 83
..	37 38 62 64 65	メモリバンク設定 .....	54 75
ステップアジャスト .....	1 4 18 19	も 文字表 .....	34
...	29 37 38 62 83	ら ラバーキャップ .....	1 9 15 27 78
た タイル式メニュー .....	4 32	り リスト式メニュー .....	33 53 56 62 63
て データエディタ .....	6 68	リセット .....	79 81
ディスプレイ表示 ...	14 17 23 28 67 80	れ レベルスケルチ .....	30 44 53 62 83
デジタルオートモード .	18 30 40 41 80	ろ 録音 .....	1 14 15 17 23 26 27
デジタル復調時に検出した .....	42	...	31 49 50 67 73 74
デジタル復調モード .....	1 18 30	ロックプレート .....	16 21
...	40 41 43 80		







Authority On Radio Communications

## 株式会社エーオーアール

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-6-4

TEL 03-3865-1681 FAX 03-3862-9927

[www.aor.co.jp](http://www.aor.co.jp) (日本語サイト)

[www.aorja.com](http://www.aorja.com) (英語サイト)

[kokunai@aorja.com](mailto:kokunai@aorja.com) (国内営業担当)